

概念集シリーズ

への補充資料

～ 1996・1～

序文

概念集シリーズの刊行過程や討論過程で交差してきた資料群の中から、パンフレットには収録し切れなかったものの一部をまとめてみた。当然のことながら、これら以外にも無数の資料群があり、この世界そのものまでも包囲していく拡がりを感じているけれども、六甲大地震による散乱と対極にあるような分布を遊びのように試みて、読者諸氏の思索や発想の自由な媒介にさせていただくのも面白いと考えた。ごく短い註を即興的に付しておくので「夏休みの宿題」の「三角定規」のようなものとして読んでいただきたい。

既刊のパンフレットの序文としては最も短いものになったが、とりあえず…。

一九九六年一月　刊行委　氣付　松下　昇

G1、G6・へバリケード

刊行委の註1 69年初めの現場感覚に迫っている。

“バリケードについて”

上野 昂 志

テレビの画面を眺めている。こちらの現実とまったく同一の時を刻んで動いている円い時計が、つねに画面の中央部に現れるこの講堂内の占拠は、現代にとってまさしく象徴的であったけれども、ところで私が先に、逮捕されるまでの時間をただただのばす「持続」の意味のみをそこからとりだしただけなのは、それがひとつの場所になたこもっている事態を貫こうとする「守勢」の努力にほかならなかったからである。

「中略」……ここで敢えて図式的な概括にまでひきもどしていえば、その「守勢」のもたらす精神的鼓舞は、兵器工場へはいって戦争廃棄のピラをくばる僅か少数の若いアナキストが萌芽的にはらんでいるところの一種の無限発展性、「攻撃」が必然的にもたねばならぬところの技術と理論の「発展」のかたちをもたないといわねばならないのである。

（壇谷雄高 「象徴のなかの時計台」 『群像』 三月号）

確かに壇谷が指摘しているように、機動隊の攻撃にさらされて余儀なく「守勢」に立たされている場合だけでなく、占拠には直接的な「無限発展性」というようなものが感じられないように見えるが、しかしそれは、その行為の裏側に「発展性」をかくしもつという形において、いわば運動のモメントとしてあるのである。たとえば大学なら、争の手段として、あるいは闘争の拠点として意味をもつだけではなく、大学の機能が停止され、その日常が否定されることに、より意味がある。というよりも、機能を止めることによって、これまで私たちの内部で意識する間もなく、既にあるものとして、大学が存在し続けてきたその日常が放棄される、そのことのうち

ちに占拠という行為の意味が、かかっているのだが、その日常に対する攻撃性は、形としては「守勢」のように見えながらも、なお無限に発展する運動の契機にほかならないのである。それは、何も抽象的な「バリケード」のことではなく、机、椅子、ロッカーを積み上げ打ちつけた現実のバリケードそのものが、それらの素材の、かくあるべしと定められた機能を奪いとることによって作られている。そのことの意味である。この間の運動を一言で言うならば、赤瀬川原平の言葉「ラムネびんはオブジェを通過してラムネ弾となる」が、もつとも適切であろう。無論、現実のラムネ弾なるものは、ただ必要がうみだした工夫のひとつに過ぎないのだから、しかしその過程を高速度撮影でとらえるように眺めるならば、ラムネびんはびんとしてのその機能を、はぎとりものとして見るような眼差しを通過することによつ

て、別なものに作りかえられるのである。ラムネ弾だけではない、道路の敷石も又、割られて投石用の石となる一瞬、この過程をたどっているはずである。

たとえば、東京の都心部の道路は、来年の春までには、銀座の御影石歩道を除いて全てアスファルト舗装にされるといふ。黒くつべりと、どこまでも続くかに見える新しいアスファルトの表面には、道路を道路としてのみ機能させようとする権力の意志が透けて見えるのだが、同時にそれは、日常というものの、頑なな表情でもある。アスファルトでつるつるに塗り固められた土地は、おそらくその黒い皮膜の下で怨恨をとぐろのようになりまきこんでいることだろうが、その上に立つ私たちも又、歩くか走るか止るかする以外にはない。その時、その細長く続いた空間は、交通の機能そのものとして閉じられ、一方私たちの「灰色の脳細胞」も終にその

空間そのものに対するラディカルな問いを発することなく閉じられてしまう。昨年いつ頃だったか、お茶の水駅に降りて歩き出した時、歩道の真新しいアスファルトが妙に生々しく感じられたことがあったが、そして、「ここも又……」と思わず苦笑してしまつたのであるが、今では、ほこりをかぶつた歩道に改めて目をやることすらほとんどない。そして、その間に補修された日常はより自然な状態を復元してきたのである。

たかだか道路のことにすぎないが、そのような常日頃何気なく見過してしまふような物の意味をつかみなおさない限り、何事も本質的に変えることはない。それらの物を何気なく見過して

いるうちに、私たちの意識も又、日常の規範のうちにありながら、それが作りあげられた規範であることを忘れて、自らのあり様を全体的に問うことを忘れてしまう。私たち内部の規範だけ

でなく、人為的に作られた制度のように、作られたということが誰の目にも明らかようなものに対して、それが日常的に存在すれば、その存在の意味を問わないで過してしまふ。たとえば、そのいい例が大学の教師たちである。彼らは日頃、「学問」、「研究」、「教育」というような言葉をよりまきながら、それらを行っている場が一体どんなものか、そして、その「大学」で自分がやっている「学問」が何なのか根本的に問うことがない。毎年毎年、入学試験をや

りながら、それがやられていることの意味を考えてみることもない、というよりも、その行われることが地球の自転のよう

に先験的なこととして、意識のうちにものほらない。彼らにとって道路がその上を歩くものであるように、入学試験はただやるものなのだ。

どうしてそうなのか。入学試験をやるとは一体何なのか、あ

たかだか道路のことにすぎないが、そのような常日頃何気なく見過してしまふような物の意味をつかみなおさない限り、何事も本質的に変えることはない。それらの物を何気なく見過して

いるうちに、私たちの意識も又、日常の規範のうちにありながら、それが作りあげられた規範であることを忘れて、自らのあり様を全体的に問うことを忘れてしまう。私たち内部の規範だけ

でなく、人為的に作られた制度のように、作られたということ

が誰の目にも明らかようなものに対して、それが日常的に存在すれば、その存在の意味を問わないで過してしまふ。たとえば、そのいい例が大学の教師たちである。彼らは日頃、「学問」、「研究」、「教育」というような言葉をよりまきながら、それらを行っている場が一体どんなものか、そして、その「大学」で自分がやっている「学問」が何なのか根本的に問うことがない。毎年毎年、入学試験をや

りながら、それがやられていることの意味を考えてみることもない、というよりも、その行われることが地球の自転のよう

に先験的なこととして、意識のうちにものほらない。彼らにとって道路がその上を歩くものであるように、入学試験はただやるものなのだ。

どうしてそうなのか。入学試験をやるとは一体何なのか、あ

(69年2月28日)

仮装としての被告とは何か

私たちは、法Ⅱ国家による規定やそれと岐立する固有の存在条件に規定され、しいられた仮装をしつつ生きざるをえない。それをあらためて確認し、転倒していく契機としての裁判闘争が始まろうとしている。

異常な(?) 服装や、歌や、雪のように舞う紙片……などは、すべての闘争手段や表現方法と同じように、Λ Vとしての仮装をしていく力に対する反撃の模索であろう。

ところで、きみにとって仮装とは何か。

裁判官、廷吏、検事、弁護士、傍聴人などは交換可能であるのに被告だけが交換不可能であるのは、矛盾していないか。法的時Ⅱ空間においては、被告こそ、最もしいられた仮装者であり、かれにとっては、被告を出現させるこの世界の仮装性を解体していく仮装者として登場する他に生きる道はない。

一方、権力によって、同じ時Ⅱ空間に召喚されている、いわゆる被告たちは、まだ、外在的にしいられた統一性しか与えられておらず、真の内在的な統一を創りだす仮装者とはなりえていない。

従って私は、何かの力にひきよせられて、この裁判にかかわっている全ての人間たちに、仮装とは何か、とりわけ、仮装としての被告とは何か、を追求するよう要請したい。

もちろん私自身も、この要請に従って、権力や存在条件の矛盾を逆用しつつ、なにものかへむかって仮装しつづけていくであろう。

一九七〇・一二・二四

なにかのEveに

仮装被告(団)

松下 昇

刊行委の註一原本は、70年12月24日の第1回公判で松下らによって散布され、松下は拘束され、3万円の制裁過料の決定を受けたが、納入しないまま現在に至っている。内容的にも、いくつもの裁判闘争で応用されている。これからも!

《い。 吉田 25 年

1987年9月12~13日

東京品川/三田倉下-おき館-新橋
24年間の経緯と訂正

「前略」
 だ、土井淑平が、それで、さういうことも言っているわけですが、ニヒロジ-社会を実現するっていうことは、必然的に政治革命を提唱するんださうです。しかし、冗談でないわけです。東京のような現在の大都市を土井淑平の理想社会とする小都市と移行の途に立つためには、全部このビル街を破壊するはか実現できないわけです。大都市になってしまったものを、また破壊するのは、反日アジア何とか武力路線か知らないけど、それだけだよ（会場、笑）しかし、破壊したときに、一般大衆がなくなるわけですよ。この考え方は、要するに、ポルトと同じです。つまり、三家の解放のための三念を、土井のようには強力で実現するために、民衆を一掃に殺していかなきやなんないんですよ。理念の倒錯の最大のもので、土井淑平の三三との理想社会っていうのは、どう考えたって、大都市になってしまったものを、全部壊さなきゃなんないでしょう。だれがするわけですか。だれが権力を握って、だれがさういふばかかなことをするわけですか。すでに存在している政権を一挙に壊す政治革命は過言にもありませんが、すでに存在する文明の遺産を壊す革命など、反動革命がいかに存在しないのです。そんなことは成り立ちようがないのです。

(後略)

G1, G7・〈反日〉

(前略)

(後略)

(前略)

これは、土井淑平の理想とする社会と、現実の社会とのギャップを、
 (反日アジア) 特色と特徴を、土井淑平の理想社会と、
 現実社会とのギャップを、土井淑平の理想社会と、
 現実社会とのギャップを、土井淑平の理想社会と、
 現実社会とのギャップを、土井淑平の理想社会と、
 現実社会とのギャップを、土井淑平の理想社会と、

~ '90.12.29 ~

金本浩一

刊行委の註-会場の笑いの主体のかなりの部分は、69年以降の情況の基軸が既成政治・社会だけでなく、既成文明の対象化(止揚(破壊と見える場合もある。))として開始されていたことを心のどこかで了解していたのではないか。その心の行方を探せ! また、このような質の「笑い」の批判もおこなっていく。

「反日」と言いつづけること

I・H

「今自分が「反日」といふとき何ができるだろうか。これが「反日」に対する興味の唯一のものである。

僕は彼らの「反日思想」に共感した。中、高生ころ僕が一人で考えていた「日本人であることの罪をぬぐうこと」を、彼らは武装闘争として実践した。自分とまるで同じようなことを考え、それを実際の闘いで示した人達が二十年前にいた。最初に彼らを知った時、あこがれ、かつ他人とは思えない親しさをおぼえたものだ。自分にもし、もう一回り強い決意性があり、彼らのような仲間がいたならば、彼らと同じ道を歩んでいたのでは、と思うことがある。

しかし、実際にはそんな決意性もなく、そんな相手もおらず、大学まで来てしまった。大学で「運動」に関するなかで免罪感を感じた

自分。だが、それは常に、見えない相手からの「つきつけ」からのがれつつも、のがれられない自分に気付くこともある。だからこそ、彼らの闘いを検討、総括しつつ、「反日」をかかえて何かできることはないかと模索している。

このような興味を持って今回の集会をみた時、どうしても物足りなさを感じずにはいられない。「反日」という視座は、死刑阻止を主張することではしか今日の状況に咬んでゆけないのだろうか。獄中の彼らとの関係でいえば最重視されるのはそうかもしれない。だが同時に今集会をはじめとする支援連の運動があまりに「反日」ということに、あるいはかつての彼らの闘いにどのような立場をとっているのか分かりにくい気がする。今回の集会でなら第二部のパネルディスカッションが、

結局パネラーどうしの話にできずあまりにお粗末だった。むしろ翌日のバスツアーのほうで、彼らの闘いの跡を見、彼らが見たであろう東京の姿を見た。今様々な現場を持つている参加者と話ができた点で有意義だった。

死刑阻止というとき、その論理があまりに運動内部でしか通用しないものになっているのではという気が強くなる。三分間発言でしゃべっていた「右翼」を納得（論理ではなく）させられる言葉を持つている人がどれだけののか。「右翼」と書いたが、昨今のオウムへの反応をみると、あれが平均的な「市民」の主張ではと思える。いくら運動の雰囲気をもろくしても、その論理に説得力がなければ意味はない。その説得力も、どうしてもこの集会からは得られなかった。

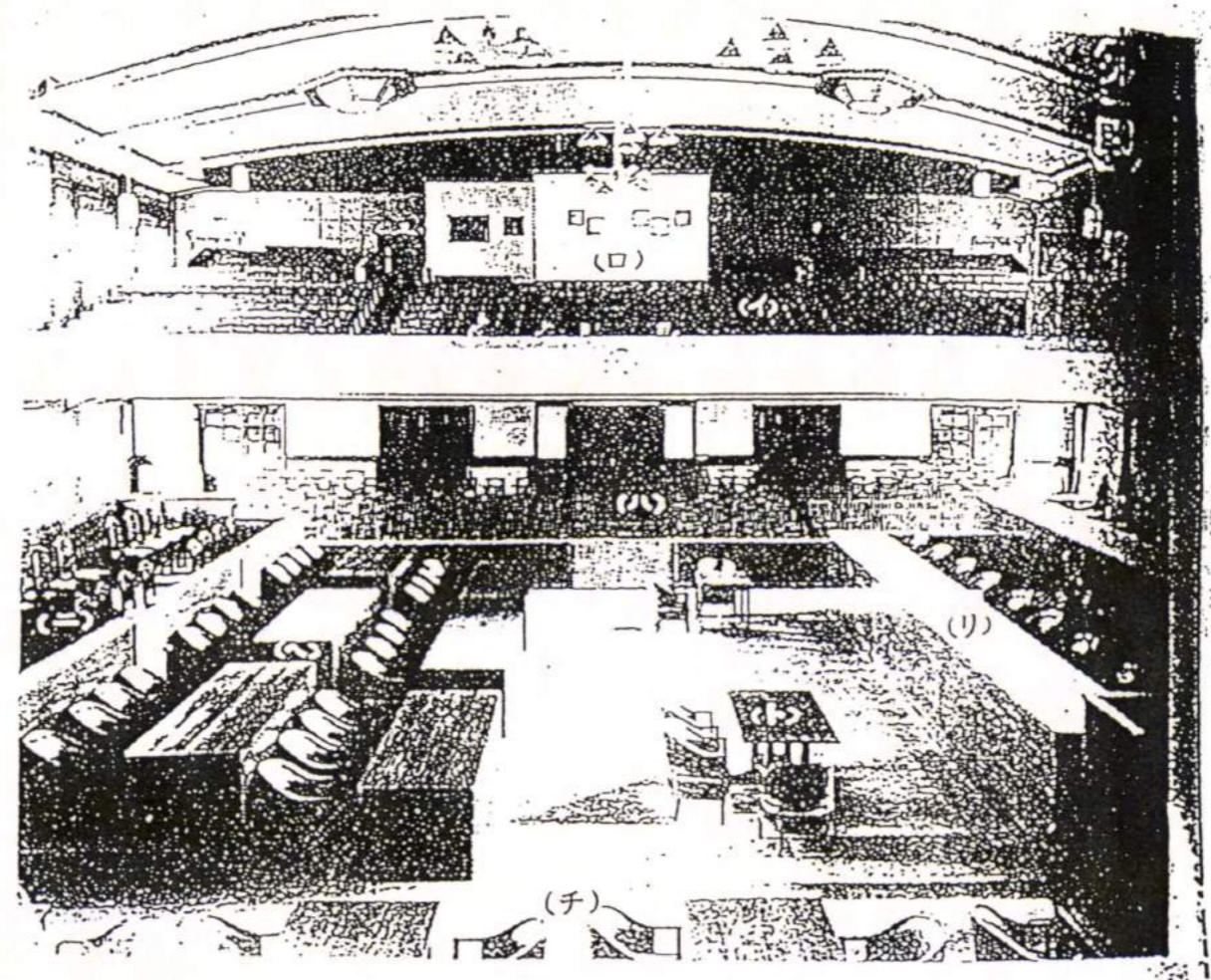
死刑阻止、その他運動の論理と「市民」の間をうめる言葉を探すこと、「反日」というもやはり自分の現場からしかその視座は築いてゆけないことは再確認できた。その点ではこの集会、バスツアーは意味があったのかもしれない。

以上、あまり集会報告、感想になっていなかったかもしれないが、思ったことを書いてみた。

刊行委の註一次号の「ニュース」には、この文章がなぜ掲載されているかわからない、と

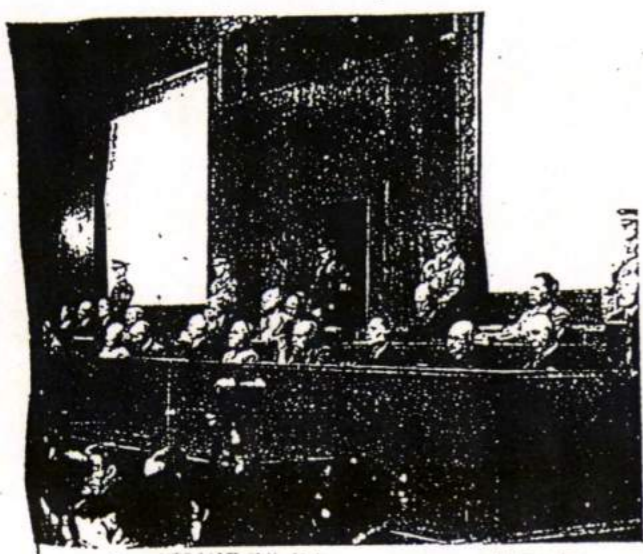
という苦情が寄せられたようである。「ニュース」発行者は、前々号への〈反日バスツアーへの参加・報告としての〉掲載が間に合わず、前号へ説明なしに掲載したこと
の「手落ち」を「お詫び」しているが、読者の「苦情」には別の意味も無意識にせよ
込められているのではないか。（現場性を微かにあれ与える）バスツアーに及ばない
（死刑阻止に重点を移動させている）集会への〈物足りなさ〉を感じる位置、その
文章を掲載することへの異和が……。刊行委としては、未知のI・Hさんのような人
こそ、概念集シリーズの〈反日〉関連項目を読んでほしい。

刑行委の註一法廷の内部構造から見て、被告人と裁判官を檢察官が（一）
 審理する形になっていることに注目したい。
 オウムに対する報復裁判の内的法廷の構造はどうか？



東京裁判所法廷席写真

- (イ) 傍聴人席 (ロ) 映写室 (ハ) 新聞記者席 (ニ) 被告席 (ホ) 裁判官席
- (ヘ) 弁護士席 (ト) 陳述席 (チ) 検察官席 (リ) 書記官席




〔富士信夫「私の見た東京裁判」から〕

（88年8月初版 講談社学術文庫）
 （91年11月）

あるときひとりの感心な男が、人々が水におぼれるのはただかれらが重力の思想にとりつかれてゐるからだと思像した。もしもかれらが、この観念を迷信的な観念だとか宗教的な観念だとか宣言でもして頭におかなくなれば、かれらはどんな水難にも平気でいられるであろう、と。一生涯かれはこの幻想とたたかつた。重力の幻想の有害な結果についてはどの統計もあらたな数おおくの証明をかれにあたえたのだった。この感心な男こそドイツのあたらしい革命的な哲學者たちの典型だったのである。

G 1. 〈科学〉

昭和三十一年一月二十五日 第一刷発行
 昭和三十一年六月三十日 第三刷発行
 ドイツ・イデオロギー
 定價百二十圓



著者 古 在 由 重
 發行者 東京千代田区神田一ツ橋二丁目三番地 岩 波 雄 一 郎
 印刷者 東京板橋区双葉町二番地 白 井 知 一

發行所 東京千代田区 神田一ツ橋三ノ三 株式会社 岩 波 書 店

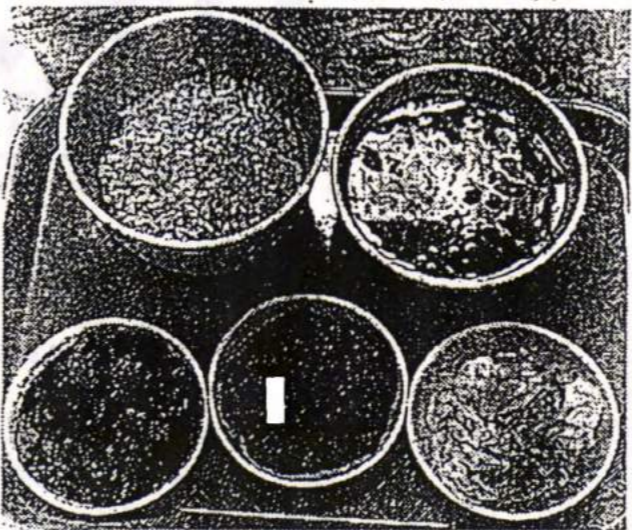
落丁本・亂丁本はお取替いたします

刊行委の註—このパンフレット18ページの重力論や、G索の最後でとり上げているドゥルーズの死との関連で考える契機にもなっている。

「塙の中」は健康食

夕食おかず4品 味は本格的

クサイ飯、とは言うけれど



ある日の大阪刑務所の夕食。妻が3割入ったご飯に中華風のおかず四品がついた
大阪府堺市田出井町の大阪刑務所で

クサイ飯を食らうとは、刑務所暮らしをすることという。実際に塙の中の食事はいかげなものかと刑務所に尋ねてみると、「受刑者の最大の楽しみですから、それはもう気を使っています。ご相伴にあずかってみると、これがなかなかいける。飽食の時代。規則正しい生活を送ることを考え合わせると、究極の健康食とも言えそうだが」。

(坂本 哲史)

9月×日 大阪刑務所のメニュー

- 朝 味付け汁、ゆかりふりかけ、キュウリ漬、麦飯
- 昼 冷めん、キュウリとツナのおえもの、パイン、麦飯
- 晩 三系湯(サンズータン)、チリソース煮、ポイルキャベツ、サツマイモとリンゴの重ね煮、麦飯

○栄養士 受刑者数約二千人で全国最大規模の大阪刑務所(堺市田出井町)。試食したのは中華風の夕食だ(別表参照)。三系湯は

卵と野菜のスープで、ペーコンのタシがきいている。チリソースはエビではなく鶏肉入りだが、それでも本格的にピリリと辛い。とろり甘い重ね煮はおやつの代わりか。どれもいける。

炊事当番は、板前やコックらの「経験者」を優先的に選ぶという。暴力団関係者が多い同刑務所でも現在、三十人の当番のうち六人が経験者。献立作りを一手に引き受ける岸本雅清・

法務技官は栄養士の資格の持ち主で、「一カ月間、同じメニューを出さないよう

工夫しています」。

○麦飯 現在の一日の食事の材料費は主食を除き三百三十六円。一九七八年の一八〇円台からすると二倍近い。汁と漬物だけだった朝食は卵や納豆などが付くようになり、夕食のおかずも平均三品から四品へ。コメと麦が混ざった主食の比率も八七年の六・五対三・五から七対三へ改善された。

○高カロリー 栄養的には、炭水化物が多いのが特徴。一日のエネルギー摂取量は労働量に応じ二千五百〜三千二百・カロリーで、

国民栄養調査の平均二千二十五・カロリーを上回る。今や健康食として注目される麦入りの主食が四百八十五〜六百八十四と、二百多しかコメを食べない国民平均に比べて多いたためだ。八時間労働、酒もたはこも厳禁という環境もあり、体重を増やして出所する受刑者が多い。岸本技官は「受刑者にとって、食欲は唯一保証されている人間本来の欲求。器も含めてより満足度の高い食事を目指したい」と話す。

炊事当番の人数、10倍に

傷害罪で八カ月間の服役経験がある舞踏家花柳幻舟さんの話。体重は四割減り、胃腸の調子は良くなったけど、食生活が豊かだったとはとても言えません。食器は抽でべたべた。野菜

こい重労働。外注の一般作業と違い、法務省に収入をもたらすわけではないから、人数も削られがちです。本当の意味での更生施設として、心のこもった食事を実現するには、当番を今の十倍くらいにしないと無理じゃないかしら。

G2・へメニュー、G8へ食事メニュー

刊行委の註一体験者の意見と体制(権力、マスコミ)の意見がズレを示す好例である。

ロダン「地獄の門」展

Rodin et la Porte de l'Enfer 開館30周年記念特別展

10月21日(土) - 12月17日(日)'89 午前9時30分 - 午後5時(入館は4時30分まで) 国立西洋美術館 上野公園
月曜日休館

主催=国立西洋美術館/ロダン美術館 協力=日本航空

作品リスト

このリストは、出品作品をカタログ番号順に記載したのですが、彫刻については、《地獄の門》との関連の仕方に応じて、8つに分類しています。

カタログ番号の後に*の付いた作品は「パリ、ロダン美術館」、**の付いた作品は「ムードン、ロダン美術館」の所蔵作品であり、その他は「国立西洋美術館」の所蔵作品です。

彫刻作品に関しては、略号でブロンズ(B)、石膏(P)、大理石(M)の別を示しました。

(前略)

■地獄の門

- 1 地獄の門 1880-1917年 B (前庭に設置)
- 2 * *地獄の門*のための第二構想マケット P
- 3 *地獄の門*のための第三構想マケット P (着彩)
- 4 アダム B (前庭に設置)
- 5 * エヴァ B
- 6 考える人(1/2等身大) B
- 7 考える人 B
- 8 * *地獄の門*のティンパヌムのための石膏原型 P

■左柱

- 9 * *アモール P
- 10 美しかりしオーミエール B
- 11 * *男のトルソ P
- 12 * 虚しき愛 B

■右柱

- 13 創造者 B
- 14 接吻 B
- 15 * 嘆き(頭部) B
- 16 私は美しい B
- 17 うずくまる女 B

- 33 * 女の殉教者の頭部 B
- 34 * *頭蓋骨 P
- 35 * 地獄に墮ちた女のための習作 B
- 36 * アリアドネのための習作 B
- 37 瞑想 B
- 38 * 腕のない瞑想 B
- 39 立てるフォーネス B
- 40 * *地獄に墮ちた女 P

■左扉

- 41 * 墮ちる男 B
- 42 * ウゴリーノと息子たち B
- 43 * ウゴリーノの息子のトルソ B
- 44 * パオロとフランチェスカ B
- 45 三人のセイレンたち(ネレイデス) B
- 46 * *横たわるニンフ P
- 47 * 髪を掻く小さな影 B
- 48 * 女のスフィンクス B
- 49 * *小さな影(no.1) P
- 50 * 絶望 B
- 51 * *祝福する精 P
- 52 * *小川をまたいで P

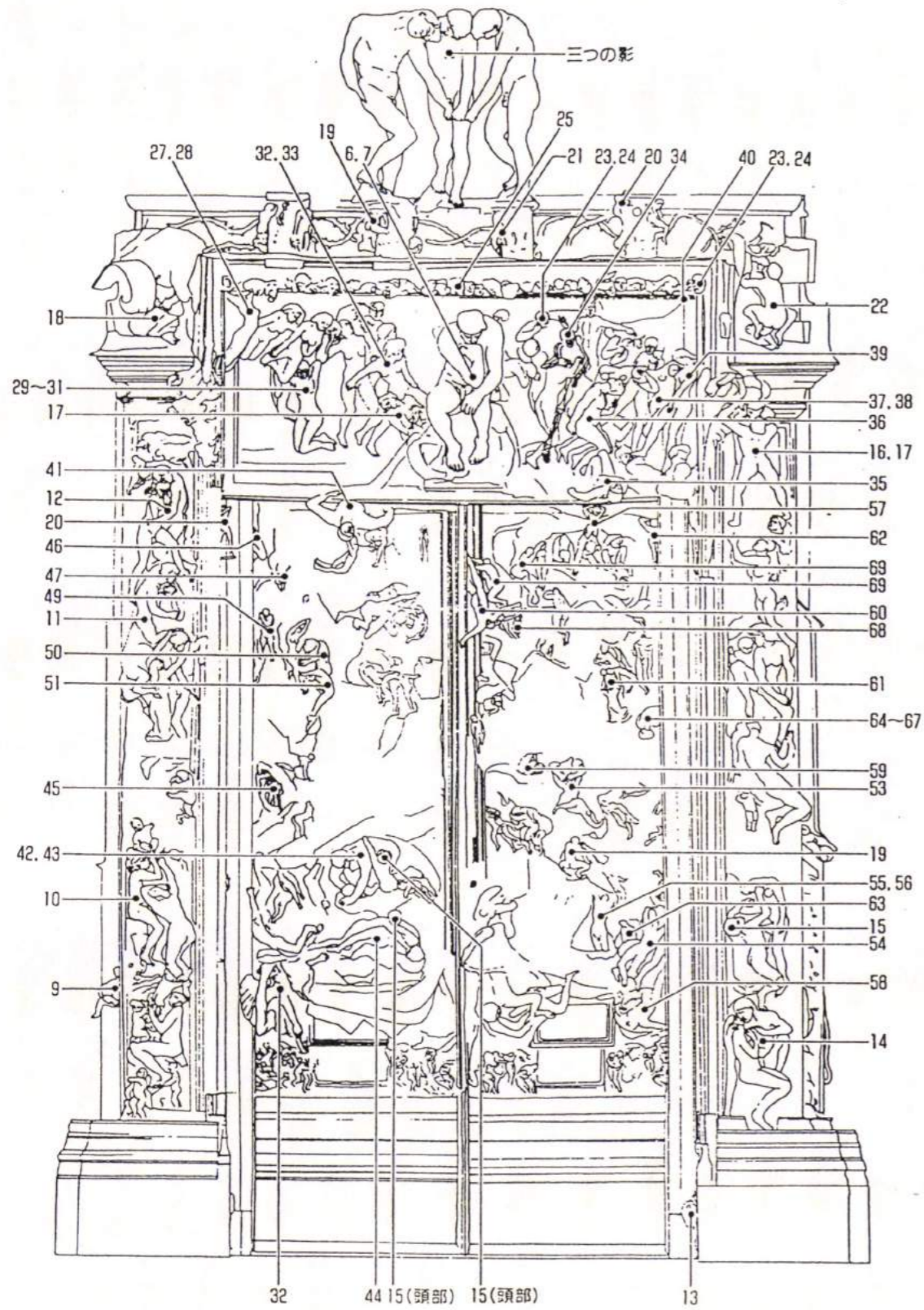
私が地獄について表現するとして、この《創造者》のようでありたい。そして、できれば、夜露や小鳥たちや私のような者に出会って、さらに輝きと意味を増すような作品にしていきたい。ただし、能力という点ばかりでなく、ジャンルの世界史的解体状況からも、このような作品の出現は不可能性にさらされているのではないか。いま、なしうるのは、この不可能性自体の《作品》化だけではないかという気がしている。

(中略)

この場合に、私たちが表現し、かつ、その向こうへ突き抜けていく拠点に交換もする《地獄》は、ダンテやロダンとは全く異なる方法(例えば概念集の方法)によって具体化されることは自明であると考える。

「地獄の門」図解

本展出品作品と一致するモチーフ・または関連するモチーフを、カタログ番号によって示す。



桜庭章司さんから C.L.障害脳はコトバ を失っております。

前略お許し下さい。
教授様母ありがとごま
います。

あと一ヶ月で、御紙を初め
て載(いた)いてから九十
四年となります。通算六八
母であります。このかん、C
L(チンブレトミン)後遺症
の一つである文字書き不能は
益々進行して、本年七月のチ
タラメ判決(検察官主張の強
監殺人)は成立しないのです。
い)裁判長は指摘するのかと
待っていました。サマリ
マン化)からのショックで、
この二ヶ月余の期間(官報
は、六十四才という加齢やハ
チコ(八王子拘)廃人化処遇
【自覚現キシン】急速に加速
しており、今、監獄遊学)下
書きです)を待つ能力もあり
ません。ワープロ(カートリ
ッジ電池式の簡便ワープロ)
使用許可されない、私は監
獄遊学も待つことができま
せん。

裁判官らの犯罪行為

私の判決だが、裁判長は自
分の就任二ヶ月前の証人尋
問で自分では一度も見ていな
い卑しい虚言性をさらけ出し
るチタラメな詐欺的アタマ論
理の御用学者・小田晋医師イ
ンチキ証言を全面採用したり
している。だがそれはまだ
よい。とにかく犯罪とはなら
ない。だが、法文を堂々と破
つて行なうを是認するの
りと侮いて乱暴度が低下する
というのではなく、文字を
写すという行為が全身踊り上
るに似た身体症状であり、同
封したゲンゴウ以上に長く
写すので書きません。

せはあります。
私は、水曜、九月二十二日
頃、トコ(東拘)へ移管さ
れるまであります。トコ
は、ハチコよりも自己実現を
認められるので、前回(六
〇才のとき)のトコ入りの
如く身長が十センチ伸びると
いう(六〇才後では起きるはず
ない奇跡が生じるかも知れま
せん。
アンゴ(暗号)駄文お詫び
致します。
ご健康を祈らせて置きま
す。では。
(9.19.93)

は、責任となるのではないの
か。監獄法九条(以下「九条」
である。死刑確定囚の処遇に
被告人のそれに準じると九条
は規定している。しかし今日
これは当局によって否認され
ている。一九六三年に出され
た「心情の安定」運送のため
である。流石(さすが)に当
局も一片の通達で法を否定す
ることはできず、十年以上、
「心情の安定」(現実には正反對
国会にても矯正局長らに死刑
確定者は被告人に準じる処遇
を受ける旨正しく答えてい
る。(同法起草者、小何佐次郎
博士はその「監獄法講義」で
は「監獄法」ではなく「同一
と記しているのである。しか
しながら、権力はそう答えて
いた一方で、新たに確定して
いる死刑囚の処遇は徐々に
「心情の安定」(現実には正反對

90年9月 救援

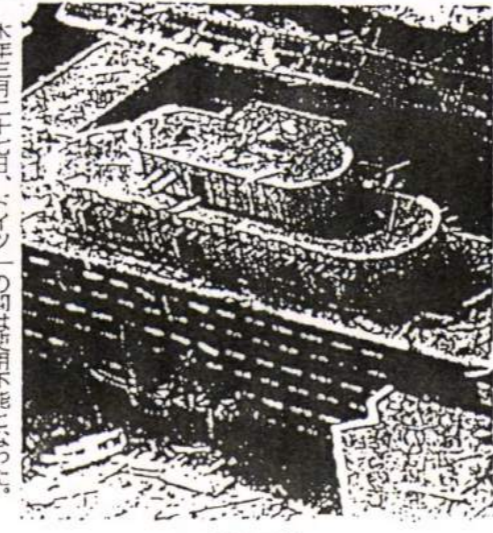
「日本はまだ そこまですべて進歩していない」

あることを氏は主張しつつあり、私たちも共感
という以上の思いをもっている。

G3・ヘワープロによる刊行

刊行委の註ワープロに限らず、コピー機の使用も不可欠で

東拘在監 桜庭 章司



本年三月二十七日、ドイツ
赤十字派(R.A.D.)のコメント
は四月一日から稼働が予定さ
れていた新築のヴァイターシ
ユタット拘置所を爆破した。
所内にいた十一人の職員は捕
縛され構外に移送されたた
め、負傷者は出ていない。
管理塔を中心とする主要な
建物が完全に破壊され、とり
「わされるが、最低でも六年

(前略)

一、二年で終わる所長職を
事故なく完了するとのみを
念頭の所長は、本省や部下
らが不快に感じる改善は決し
てなし得ない。
例えば、文字書き不能に近い
私に対するワープロ使用で
ある。文字書き不能なら書く
なとも言えるが、それは死ぬ
ていつまでか。私へのC
L強行だが、強行した下医師
の証言には私は出資せず、
ウン八百を証言されたことな
とチタラメが多すぎる。

死刑確定者の処遇について
も裁判官(良心的な裁判官は
外される)らは、死刑確定者
にとっては食事以上に重要な
外部交通権を立法府が忘れた
かの、とくく妄想、主張して
「かかる運用には修正を加え
て」などと現状を認め、国権
の最高機関立法府の権力を侵
害している。

政府は繰り返し繰り返し回
連には順守している旨答えな
がら、国内ではその運送最低
基準規則五十七条「苦痛増大
の禁止」や五十八条「拘禁期
間の活用」他に真つ向から返
反している。矯正局長は国会
にて「受刑者は社会の敵、市
民の敵だから処遇を良くする

ことはできない。また、処遇
を良くしたら、苦しみ方が足
りず足りないため、再犯して
しまつ」と主張しているが、
こんなアタマの高級役人も外
国人相手には詐欺師根性は隠
し、紳士を演じるのである。
拘禁十一年と多量に、日本
の監獄の建物からして苦痛増
加目的につくられているのが
よくわかる。徹底した自己決
定の禁止(運送最低基準五十
七条違反)である。最新の八
拘できえ、ラジオや電灯のス
イッチは内部になく、食器札
番にも内部より開閉できる把
手はない。食器札番を内側か
らも開閉できれば、掃夫さん
らの仕事量も大きく減らす。
体験しないとわからないもの
だが、急ぐあまり食器札番を
叩き開かれたり閉められたり
されるのは、精神衛生上極め
て有害である。

一切の書籍や整理棚も無
い。東拘には一応、一メートル
近い高さの五五判より一回
り大きい棚も衣類かけもある
が、八拘にはB四判大板が二

府中刑や八拘が廃人化処遇
で私を自死寒行に追い込みな
がら、失敗するや投即き重傷
化、革手錠十日間リンチ、七
週間も不必要な上半身ギブ
ス、懲罰三十日等々と、自死
の形での自決の権利を禁止し
ているが、これも本官方針で

この拘置所は、ヘルリン
プロツェンゼー監獄と並ん
でとりわけ女性にたいする厳
重刑罰システムにより運営さ
れるべく設計された。高度な
科学技術を駆使した獄中者の
選別、完全管理システムが完
備された監獄だった。「パー
スト・シィティ」より)

刊行委の註―何度も想起する歌である。

そを見ればこころ鎮まる夜の星を見られずなりぬ転房ありて

獄を脱けヨットに乗りて太平洋の波に映れる星見つめばや

吾らにも何かは遺るものあらんたんぼほの綿毛を一息に吹く

そののみが時間の澱みあるごとし通路のはての格子戸のきわ

坂口・弘 歌稿

一九九三年十一月一日第一刷発行

坂口 弘(さかぐち ひろし)
一九四六年十一月十二日 千葉県生まれ
一九六二年四月 本更津高校入学
一九六五年四月 東京水産大学入学(中退)
一九七二年二月二十八日 あさま山荘事件で逮捕
一九九三年二月十九日 最高裁で死刑判決
著書 『控訴審供述調書』(自費出版・一九八五)
『あさま山荘1972』上下(彩流社・一九九三)

著者 坂口 弘
編者 坂口菊枝さんを支える会
発行者 天 羽 直 之
印刷所 図 書 印 刷 社
発行所 朝 日 新 聞 社

〒104-11 東京都中央区築地五-3-12
編集・書籍第一編集部 販売・出版販売部
電話 〇三-三五四五-〇二三一(代表)
振替 東京〇一七三〇
定価はカバーに表示してあります

G4・〈歌集「不条理」を媒介して〉

© 坂口菊枝さんを支える会 1993
ISBN4-02-256667-1
Printed in Japan

G4・〈歌集「不条理」を媒介して〉

金子みちよは、

刊行委の註—この二つの歌のどちらを

死の直前に口ずさんだか?

かくれんぼ

作曲者不詳
下総院一 作曲

♩ = 96

かくれんぼするものよつといで

じゃんけんぽんよ あいこでしよ

もう いい かい きあ だ だ よ
もう いい かい きあ だ だ よ
もう いい かい かい だ だ よ

じゃんけんぽん

葛原しげる 作詞
注々木すくろ 作曲

♩ = 92

じゃんけんぽんよ あいこでしよ

あらあらだめよ もういちど

じゃんけんぽんよ まだだめよ

なんべん やつても きまらない

原曲・鎌野京一 挿絵・今村純子 楽譜・増田博一

日本音楽著作権協会 出 許活第8313001-911号

童 謡

1983年6月10日 初版発行 ©
1990年3月10日 2版8刷

編集 野ばら社編集部

発行者 志村文世

印刷 開成印刷株式会社
製本 有限会社 西村製本所

発行所 株式会社 野ばら社
〒114 東京都北区西原1丁目16番14号
電話 03・910-6111・振替東京2-33953

昭和十六年三月「ワタノホニ」上

かくれんぼするもの
よつといで
じゃんけんぽんよ
あいこでしよ

もういいかい
まあだだよ

もういいかい
まあだだよ

もういいかい
まあだだよ

1 じゃんけんぽんよ あいこでしよ
あらあらだめよ もういちど
じゃんけんぽんよ まだだめよ
なんべん やつても きまらない

2 じゃんけんぽんよ あいこでしよ
あらあらだめよ いしかみじゃん
あらあらどなた そのはきみ
はきみが おにに きまった



(前略)

ノイマンがコンピューター関連分野で行なった代表的な研究を、三つ取り上げましょう。それは、

- (1) 自己増殖ソフトウェアの研究
- (2) コンピューターの信頼性問題
- (3) ゲームの理論

これらとともに、「プログラム内蔵方式」を含め、ノイマン型社会の危険な「仕掛け」として以後で論じます。驚くべきことに、ノイマンが研究した問題は、現代のコンピューターの本質的な危険性にかかわるものばかりでした。

これほど重要な研究テーマを取り上げた科学者としては、他にサイバネティクスを創始したノーバート・ウィーナーがいます。しかし、ウィーナーはノイマンほど、コンピューターを深く理解できず、それゆえ、コンピューターに対する視点は、かなり平凡なものというはかありません。

(中略)

(1) 自己増殖ソフトウェアの研究

この研究は、悪意を持ったコンピューター破壊につながります。ウィルスの万能性が理論的に保証されたので、システム破壊以外のさまざまなコンピューター犯罪の萌芽が潜んでいます。ノイマンは、ウィルス以外にも、新しい犯罪形態や戦争形態について、よく理解していたことでしょう。

(2) コンピューターの信頼性問題

悪意の行為によらなくとも、コンピューターは壊滅にいたることがあります。けっして誤りを起こさないコンピューターを作るのは、現実には不可能です。しかも、「プログラム内蔵型」のコンピューターが依存するソフトウェアのエラーの問題はさらに深刻です。不可避な事故だけでなく、この問題は現在では「ソフトウェア危機」としてもとらえるべきです。

(3) ゲームの理論

ノイマンは、コンピューター社会のゲーム化現象のもとになる基礎理論を作りました。主たるゲームは、金融社会で行なわれます。そして、その背後では国際政治ゲームが繰り広げられています。彼のゲーム理論が各所で本領を發揮しています。(そして)

プログラム内蔵方式 (へは)

コンピューターにかかわる諸問題を、すべて包括する概念です。コンピューター・ウイルス、ソフトウェアの作りにくさ、使いにくさ、コンピューター技術者の労働問題、コンピューター事故、多くの人びとを取り残しての経済戦争の激化、などの根源となっています。ここにこそ、「ノイマン型社会」の実像があります。

このように見てくると、ノイマンとは空恐ろしい人物である、と慨嘆せざるをえません。彼が活躍したのは、二十世紀半ばまででしたが、その時点で現代のコンピューター社会の矛盾を、あまりに見事に予見しているからです。

彼はまさに、悪魔的な天才だったことになりました。そして、そのような悪魔的な能力があったからこそ、コンピューターの歴史の中に、是が非でも自らの名前を残さねばならぬと、「プログラム内蔵方式」のアイデアを盗むという、なりふりかまわぬ行為に出たのでしよう。

ノイマンは、原子力とコンピューターという、二十世紀の二大技術にかかりました。そのいずれもが、危険な軍事的研究だったことはいまでもありません。

(中略)

ノイマン型とはまったく異なる方式として注目されたのが、「ニューロ・コンピューター」です。ノイマン型の三つの基本原理とまったく無関係なので、この方式は根本から非ノイマン的です。応用面で注目されていますが、理論上、必要とする回路量が桁違いに多量になるという欠点があるので(この議論には数学的解析が必要ですが)、現在の技術で大規模なシステムを組むことはできません。

さまざまな技術を俯瞰してみても、近い将来にノイマン型を超えるほど新しい方式は、今のところ見つかりません。控えめに考えて、ここ数十年の間、ノイマン型がコンピューターの基本方式の主流であり続ける、と予測されます。

(後略)

コンピューター社会が
崩壊する日
フォン・ノイマンが
仕掛けた3つの罠
1990年3月30日 初版1刷発行

著者 逢沢 明

G5・〈ゲームの不可能性〉

刊行委の註(1)、(2)、(3)のいずれも

悪意のレベルに交差してくるといふ示唆!

(日本名、北川源太郎)
1926年? 樺太サチ生まれ。
資料館 ジャッカ・ドフニ館長。
報告書『ビイ ハブシウィ』(私は訴える)他。

(前略)

刊行委の註「アイヌ以外の少数民族へも注目」

「恩給申立書」厚生大臣・田中正巳殿

「私はオロッコ族で、昭和十七年八月十一日、旧敷香陸軍特務機関より召集令状をうけ、軍事訓練のほか、きびしい特殊教育をうけた後、旧恵須取陸軍特務機関元陸軍曹長大田久雄氏らと共に日ソ国境線で対ソ諜報、謀略等の秘密戦に従軍していた者です。

戦後、私たちオロッコ、ギリヤークの青年はソ連軍にスパイ容疑で逮捕され、ソ連軍事裁判で私は八年の重労働の刑を言渡されてシベリアに抑留されました。

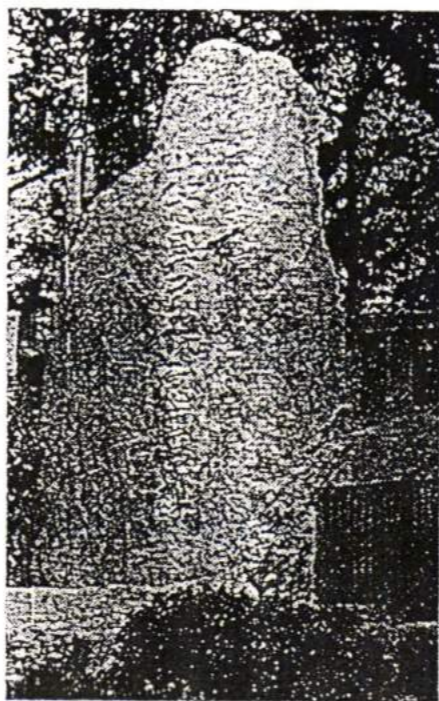
戦犯者としての刑期を終えて引揚げるとき、父母姉妹が住む故郷の樺太にもどるべきか、日本に引揚げるときか、迷いました。迷った末に私がえらんだ道は日本に引揚げることでした。オタスの土人教育所で日本語を習い、日本の教育をうけ、召集令状までうけて、「高砂族に負けるな」と教育されて従軍した私たちは、新しい祖国を日本に求めました。兄の平吉(現在札幌在住)もその一人でした。

特に私を日本人として自覚させたのは、戦犯者として拘禁されていた時です。ソ連邦の軍事法廷で旧日本人として扱われたとき、私は初めて帝国軍人として罰せられることの光栄を知り、どんなに苦しい目にあっても、旧軍人として堂々と刑をうける覚悟をきめました。

しかし、引揚げ後は誰一人として私たちを相手にはしてくれません。日本での私は樺太から引揚げてきたオロッコにすぎず、私たちの過去を証明してくれる者はなく、棄てられたままでした。話をしていても誰も信用してくれず、何のために日本に引揚げてきたのか、私は日本人ではなかったのか。残念というよりも裏切られた、という気持ちになりました。

二十年間ちかく、このような状態がつづく中で、兄の平吉も過去のことをあきらめ、日本に引揚げてきた私たちの同族も兄と同じような気持ちになりました。過去を証明してくれ、とさわけば、オロッコであることが分かり、就職にも不利になり、子供たちもみじめな思いをする、と皆黙ってしまいました。そんな気持ちでいるとき、網走、北見の多くの教師が私たちの問題を取り上げてはげまして下さり、各方面に紹介し、自分の足で各地をまわって下さる労をとって下さいました。

当時、私たちに召集令状を出した扇貞雄特務機関長は、私たちが戦没したものと考えられ、神戸護国神社境内に『北方異民族慰霊之碑』を建立されて霊を祀って下さいました。私は今年(一九七五年)八月五日、慰霊碑に参拝し、亡き戦友たちに私が健在であること、死んだ戦友が軍人として認められるまで、北川源太郎は一人になっても頑張ることを誓いました。



扇元特務機関長らが建立した「大戦殉難・北方異民族慰霊之碑」(神戸・護国神社)

扇貞雄元少佐が網走にきて、「申訳けなかった」と謝られ、その後、当時の上官だった南部、大田曹長も網走に來られ、「源ちゃん、すまなかった」と私の手をにぎり、私をはげまして下さった時、いよいよ私も旧軍人として証明されることに確信をもちました。

いま私は建設労務者(日雇い)として、未だに結婚も出来ずに一人暮らしをしておりますが、現在の心境は一日も早く軍人恩給を支給され、かつて私らが日本軍人として戦ったことを証明して下さいることを心から願う次第です。

昭和五十年十二月二十日

北川源太郎

厚生大臣

田中 正巳 殿

(中略)

オレたちは軍人ではなかったのか

「……(厚生省)援護局柏井秋久調査課長がこのほど北川さんにあてた手紙によると、樺太原住民には兵役法の適用がない。北川さんが日本国内と同様のはがきによる召集令状を執行されたのは扇さんらの証言でも明らかだが、これは現地日本軍が住民の信頼感を得るために行なった懐柔策の一つだった、という……救済の道を断たれた北川さんは『少数民族だからといって旧軍が使いつ放しとは……。死んだ戦友のためにも恩給法の改正を求めたい』

(後略)

その後のゲンダース ゲンダースの「ヌチーカ トリチビ」(小さな夢)の一つが実現した。北方民族資料館『ジャッカ・ドフニ』が、運動が発展する過程で、各地の多くの人びとから寄せられた募金によって、1978年8月に完成した。用地は網走国定公園内、市有地の無償貸与をうけた。ゲンダースは、資料館長として充実した日々をおくっていたが、1984年7月8日、脳出血により急死。網走市卯原内(うばらない)にある高台の墓地に養父・ゴルゴロと眠っている。
資料館 ジャッカ・ドフニ=網走市大曲2-96
(電話 01524-3-1149) (網走別務所より大曲へ約700m、網走駅より)

書名 ゲンダース—ある北方少数民族のドラマ
著者 田中 了+D・ゲンダース
装幀 水谷武司
発行者 荒井 修
第一刷 1978年2月20日
第四刷 1985年7月10日
印刷所 ミツワ印刷・真生印刷
製本所 ナショナル製本
発行所 株式会社 現代史出版会 〒105

G5・11



小菅刑務所

所を觀て

東京工業大學教授
工學博士 田邊平學

級女司法技師藤原重雄君が五ヶ年に亘る苦心の作小菅刑務所の新建築が成つた。十月廿七日に舉行される筈の竣工式を前にして九月廿八日土曜日の午後建築學會の見學が催されると云ふので早速参加して見る。

東武鐵道の淺草驛で乗車約二十分を電車で揺られて小菅驛に降りれば早や敷町の彼方に異様な建築物の一團が望まれる。中央に聳ゆる看守塔、高く圍らしたコンクリートの塼、其の内部に隠見する大小形状様々なる建物、一目見てハ、アあれだナと頷かれる。近づくと及んで形状は愈々奇に細部は益々怪を極める。然し歩を進めて之を本館(第一圖參照)の正面より見れば、池を前にして上壁がりに

作られた表現派風の車寄も面白く、雲を衝く看守塔も前から単なる時計台に見え、其の明るい緑色の仕上げと相俟つて若し此處に左右に連続したコンクリートの高塼が附近に勞役する獄衣の囚人の姿とが無かつたならば誰しも之を何かの新らしい科學研究所とでも思ひ誤るであらう。

(中略)

雜居房は八人宛を一室に收容する様になつてゐる。幅三尺に満たぬ乍らも木製固定の寝台が並べてある。例の洗面器兼用の机も数脚あり、部屋の一隅を割して水洗式の便所もある。更に全刑務所内に僅か十六室と限られた優良房に至つては一人一室の優遇である。三河島あたりのトンネル長鼠に優る事萬々、どうかすると我々の生活よりも上等である。こんな結構な所に住めておまけに衣食の心配が無いのならイツソ刑務所へ入れて貰つた方が云つた様な氣持を起させはしないだらうか。藤原君は此の疑問に對して次の様に云ふ。社會に之れ以下の生活があるからと云つて刑務所の生活を更に夫れ以下に落さねばならぬと云ふ筈はない。此の刑務所で送る位の生活は苟くも人間としては最低限度の生活で無くてはならぬ。若し之れ

以下に生活が實存するものみすれば夫れは正しく社會の缺陷に基くものであつて、其の生活をこそそれ以上に引上げる様に考究されるべき筈のものであると。尙萬一刑務所の設備だけを見て入つて見たい等と思ふ者があれば以ての外の不心得であつて、普通の人間には到底半日も辛抱は出来ないであらう。如何となれば此處では人間の特權であるべき筈の自由を云ふ事が朝から晩まで完全に剝奪されてしまつてゐるからである。

(中略)

小菅刑務所の新建築に就て普通一般の建築術に比して明かに趣きを異にしてゐると思はれる點が少くも二つある。其の一つは設計が斷然従来の所謂牢獄建築の型を破つてゐる點であつて、此の事に就ては既に述べた通りであるが、自分は刑務所とは何ぞやと云ふ問題の色々に考へて見た。考へ抜いた點、之は結局一種の精神病院として取扱はるべき性質のものであると知つた」と云ふ藤原君自身の言葉が此の新建築設計の精神を最も如實に表はしてゐる。

刊行委の註—受刑者の手によつてのみつくられた
という強いられたセルフビルド性!

G1、G6・監獄

ふのだから其の骨折りの程は思ひやられる。事務室に引込んでゐる暇が無い爲に圖面に追はれる事甚だしく、畳入れをした凹面等は見せ度くても一枚も無いこの事、誠に尤もな話である。夫れにしては實によく出来てゐる。仕事の隅々まで毀廢化しの無いのが何よりも目を惹く。材料を入れて送つて来た木箱の蓋を削つて寄木張の床とし、食糧の外米の袋を裂いて羽目板の目地にしたと云つた風の廢物利用が隨所に行はれて夫々に面白

い効果を示してゐる。構造的には建物の性質上頑丈を必要とする爲三寸の厚でよい間仕切壁も七八寸になつてゐると云ふ風で強感計算的興味を惹く部分は比較的少いがそれでも無量の缺點を補ふべく逆梁を用ひて構成されたベタ地盤や建物全部が耐震型の集剛とも見らる、チェーン式の監房なきに他に類を見ぬ數々の構造的特異性も見出される。工費少くも三百萬圓はかゝつたらうと思はれる延一萬四千坪の大建築が、たゞへ工賃を含

まぬにもせよ僅かに百四十萬圓餘で出来上つたとは全く嘘の様な話である。

敢然傳統を破つた司法省の英斷もさること乍ら、獨力能くあれだけの建築物を完成した藤原君の偉大なる創造力と無限の努力とに對しては、深甚の敬意を表すると共に同君を級女の一人として有つ事を秘かに自分は誇りとするものである。(昭和四年九月廿日)

動物実験の歴史とともに 動物実験反対の歴史が あります。

近代以降、デカルトらによってつくられた人間中心の世界観は、自然や生命を機械的、暴力的に扱う考え方を定着させました。

「彼らは完全な冷淡さでイヌをむち打ち、それを憐れむ人々を嘲笑した。彼らは動物は時計と同じであり、その悲鳴はゼンマイがたてる雑音にすぎず、肉体は何も感じていないのだと言った。彼らは動物たちを板にのせ、四肢を釘づけにして生体解剖をし、科学者仲間的一大テーマであった血液の循環を観察した。」

(17C、ポールロワイゼルの神学校での実験風景)

「自然を支配するためには、それを拷問にかは、尋問し、解剖し、その秘密を暴き出さなければならない」

(近代科学の祖フランシス・ベーコン)

このような考え方は、人間が自然の中に生かされ、すべての生命とつながり合い、共存しているという大切な事実を忘れさせ、結果的に生態系の破壊や環境汚染など、私たち自身を傷つけるという愚かな誤ちを引き起こしてきました。動物実験もまたこのような科学の潮流の中に取り入れられ、多くの誤ちを重ねてきました。

「犬を押えつけ、釘でテーブルに打ちつけて生きのまま解剖し、腸間膜静脈を見物者に見せてくれる野蛮人どもがいる。この犬の中には、あなたと同じ感覚の器官がみんなそろっているのだが、機械論者よ答えてほしい、自然はこの動物の中に何も感じないという目的で、あらゆる感覚の源泉をそなえさせたともいうのだろうか」

(ポルテール)

「動物実験は犯罪である」

(ピクトール・ユゴー)

(動物実験反対協会初代会長に就任したときの挨拶のことば)

動物実験の歴史とともに動物実験反対の歴史があります。動物実験に対する反対運動は、動物への思いやりや人道的見地からはじまり、今日では科学的医学的な立場からも多くの疑問と批判が起こっています。

「実験モデルとして動物を使用することは、(方法論的誤り)である。われわれがなすべきことはこの誤りを正すことである。」

(ピエトロ・クロッチェ博士)

「動物実験の価値は、その存続に既得権をもつ人々によってははなはだしく誇張されてきた。毎年動物実験に投資される何十億ドルもの金は、臨床研究や衛生プログラムに回されれば、ずっと効率よく、人道的に、そして効果的に使われることだろう。」

(MAMC)

人間も自然の一部である以上、他の生命との共感、自然への畏敬の思いなしに人間の豊かな暮らしも成り立ちません。私たちは、人間にとって価値があるかないかに関係なく、すべての生命、自然を大切にすることが、あらゆる差別を越えて人間を尊重し心豊かな社会をつくってゆくことにもつながると信じています。

「あらゆる生きものに対してあわれみの念を抱くようにならない限り、人類に平和は訪れないだろう。」

(ノーベル平和賞受賞のフランス人医師 A. シュバイツァー)

岩だらけの峰、みずみずしい草原、子馬の体温

そして人間、すべてはひとつの家族

忘れまい、すべてはつながっている。

家族をつなげる血のごとく、すべてはつながっている

大地に起こることはかならず大地の子らにも起こる

人が命の織物をおっているわけではない

人は命の織物のなかのただひとつの糸

人の命の織物に為すはその身に為すと同じ

(チーフ・シアトル)

JAVA (動物実験の廃止を求める会)

〒113 東京都文京区向丘2-37-8, 2F

TEL: 03-3827-1596 FAX: 03-3827-5162

郵便振替: 東京8-114454

G7・〈母子サルのゲリラ戦争〉、G8・〈手術・さめたあとの夢〉
刊行委の註「〈動物〉をへヒトを含む生命」と把握する時、

この事実を無視できない。

1.1 構造

数を構造的にみるとは、どのようなことを意味するのであろうか、人によって意見やニュアンスのちがいはあろうが、大体において、代数的構造、順序的構造、位相的構造の3つに分けられるようである。

代数的構造とは、実数について考えてみると

(イ) 実数は四則算法が自由に行なわれること(ただし、0で割ることを除く)。別のことばでいえば、実数は四則算法に関して閉じているということ。

(ロ) そして、実数においては、加法・乗法に関する交換の法則、および結合の法則が成立する。かつ分配の法則も成立する(ことこのことを、「加法・乗法の公準」が成立するともいうことがある)。

$$I \quad a+b=b+a, \quad ab=ba \quad [\text{交換法則}]$$

$$II \quad a+(b+c)=(a+b)+c, \quad a(bc)=(ab)c \quad [\text{結合法則}]$$

$$III \quad a \times (b+c) = ab+ac \quad [\text{分配法則}]$$

このような立場で実数をながめることを、実数を代数的な構造上の観点からみるということができる。

順序的構造とは、実数についていえば、任意の2つの実数を a, b とすれば、この2数の間には、

$$a > b, \quad a = b, \quad a < b$$

のいずれか1つのみが常に成立する。また、

$$a > b, \quad b > c \Rightarrow a > c$$

である。このような立場で実数をながめることを、実数を順序的にみるということができる。また、実数は順序的構造を有するといってもよい。

位相的構造というのは、解析学を学習した人は、近傍 (ϵ -近傍とか、 ρ -近傍といったようなもの) という概念をよく知

- 1) closed, 閉じているとは、実数に四則算法をほどこしてもやはり実数であるということである。
- 2) postulate, 今後このような言い方をすることもしばしばある。
- 3) " $a > b, b > c \Rightarrow a > c$ " は " $a > b, b > c$ ならば $a > c$ である" ということを記号的に表わしたものである。

っているが、このように1つの数にその近傍を付して考えるような考え方を位相的にみているということができる。

このようにみえてくると、実数は、上にのべた3つの構造を合せもっている、すなわち、三重の構造を有するということができる。

四則算法が自由に行われて(ただし0で割ることを除く)、かつこれに関して加法・乗法の公準がなりたつような構造をもったものとして、数を把握しようとする、その拡張は複素数で終りをつけるのである。

本書では、このことを十分よく説明し、これ以上に数を拡張しようとする、たとえば4元数のように、形式不易の原理をそのまま保持できなくなることに言及したいのである。

(後略)

数 学 選 書

複素数と4元数

昭和42年6月20日 初版発行
昭和49年7月31日 3版発行

著 者 坪 路 勉

発行者 吉 田 全 夫

発 行 所 槇 書 店

東京都中央区八雲洲5-5 (郵便番号104)
電 話 東 京 (03) 231-3608・8238
設 館 口 座 東 京 2 9 8 9 8

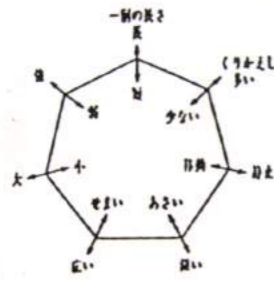
新日本印刷・菊池製本

㊟ (7.12)

G7・へ表現としての数式

刊行委の註一数についての三つの構造を数式や文章や概念について追求したい気を起こさせてくれる。それぞれの関連や未踏領域の追求についても。

A：擬音語のあらわす痛み



7角形は、面積の大小が痛みの耐えがたさの程度をあらわす。図の中では、左から右へ、上から下へと並んでいる。

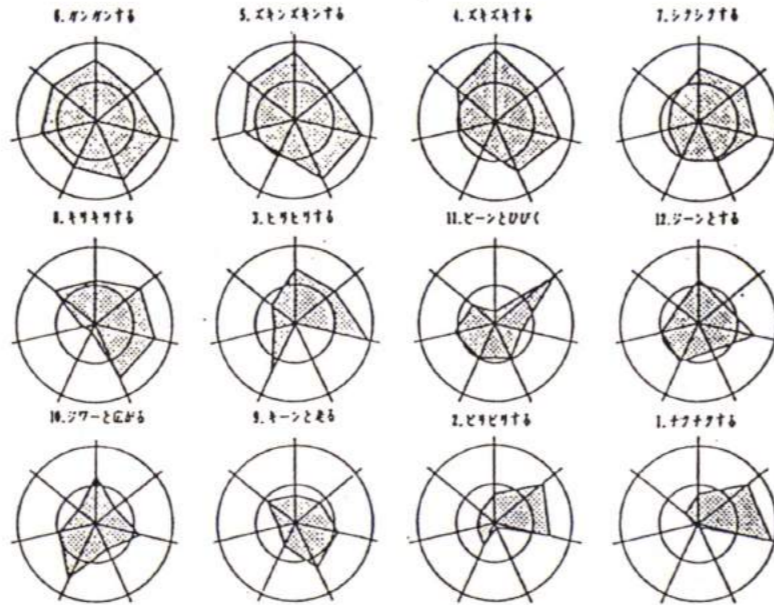


図 5-2 (A) 痛みの感覚的性質をあらわす7角形プロフィール
30 語リストの中の擬音語のあらわす痛みを示す (Satow et al., 1990, 佐藤ほか, 1990)

B：具体的に表現した語のあらわす痛み (7角形の配列は図 5-2 (A)と同じ)

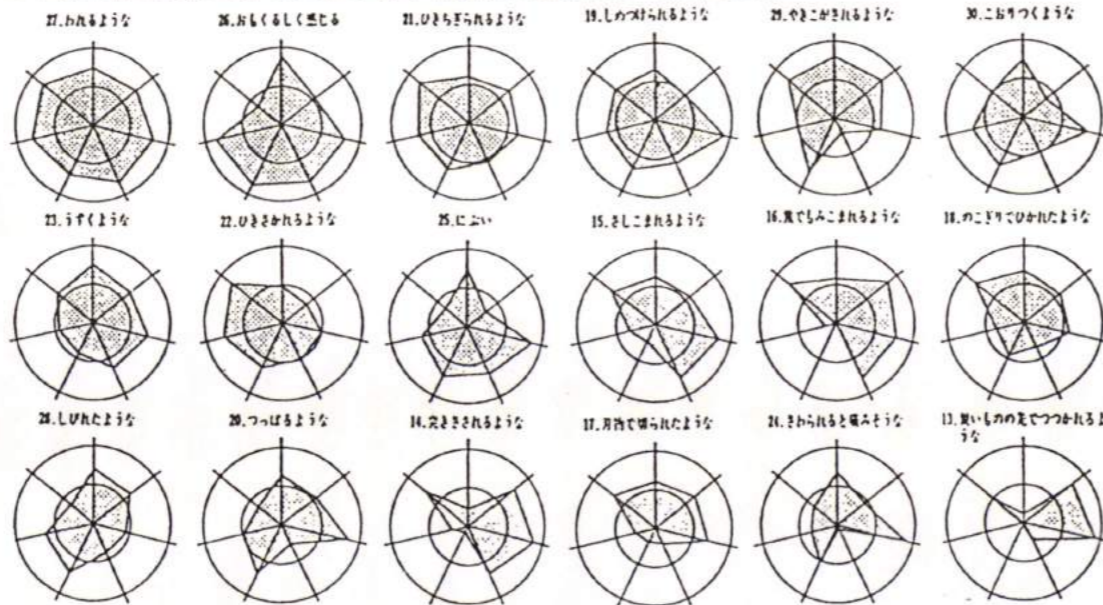


図 5-2 (B) 痛みの感覚的性質をあらわす7角形プロフィール
30 語リストの中の具体的に表現した言葉のあらわす痛みを示す (同前)。

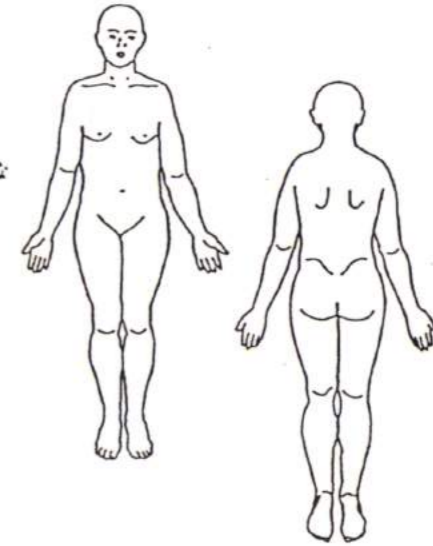
87 第5章 痛み感覚の質と強弱は測れるか?

年 月 日記入 年齢 歳 男女 氏名 _____

下記の言葉の中に現在のあなたの痛みを表現する言葉がありますか。ありましたらその言葉の番号を、○でかこんでください。ふたつ以上に○をつけても結構です。

1. チクチクする
2. ヒリヒリする
3. ヒリヒリする
4. ズキズキする
5. ズキンズキンする
6. ガンガンする
7. シクシクする
8. キリキリする
9. キーンと走る
10. ジワーと広がる
11. ビーンとひびく
12. ジーンとする
13. 鋭い物の先でつかれるような
14. 突きさされるような
15. さしこまれるような
16. 鐘でもみこまれるような
17. 刃物で切られたような
18. のこぎりでひかれたような
19. しめつけられるような
20. つっぱるような
21. ひきざられるような
22. ひきさかれるような
23. うずくような
24. さわられると痛みそうな
25. にぶい
26. おもくしく感じる
27. われるような
28. しびれたような
29. やきこがされるような
30. こおりつくような

痛みのある部位に印をつけて、その言葉の番号を書いてください。そして、その部位が、表面か、浅いか深いかを、印の横に記入してください。



この目盛の上に、痛みの強さとその言葉の番号を記入してください。

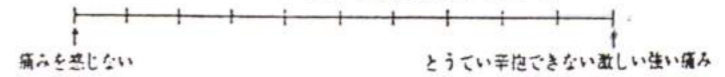


図 5-1 痛みを自己評定するための30 語リスト (佐藤ほか 1990, Satow et al., 1990)

記入例のように言葉で痛みの感覚的性質をあらわし、下部の横軸でそれらの痛みの強弱をあらわす。

1991年8月22日 初版第1刷発行 ©

発行所	著者	痛みのお話
株式会社 日本文化科学社	畑 東 宮 谷 奥 佐	生活から 治療から 研究から
〒113 東京都文京区本町六丁目一五二番一三	山 山 岡 口 富 藤	
電話 (株) 三三三三	俊 篤 俊 俊 愛	
	輝 規 徹 治 之 子	

三〇語リストと七角形プロフィールで痛みをあらわす

刊行委の註—この見解自体は、いくつもの模索の一つでしかないとしても、同時に

(前略)

重力を比喩とする様々の概念を再検討していく際の参考になる。

空間はわれわれ(万物)に対して常に浸透、透過して、空間それ自体の物性(歪み)に完璧に同化させている。しかし地球中心部に進むにつれ、物質比は徐々に高質量、高密度化してくるので、空間自身の透過できる比率は低下してくる。空間からいわせれば、本来は自分が占めているはずの文字通りのスペースを、中心部に存在する超硬物質に押しつけられ、排除される形になる。

ここにアインシュタインのいう、「空間は曲がり歪む」という物理現象が生じてくるのだ！(註、こう述べると、地球中心部に超硬物質など存在するかどうか分からないという科学者もおられるので、ムズカシイことは抜きにして、「地球全体が有する巨大な質量のため、空間の浸透が排除されるので空間は歪む」と、考えても同じである)

ここまでいえばお分かりだと思いが、重力というミステリアスなものの正体は、地球中心部に存在する超硬物質に排除された空間が歪み、それが元に戻ろうとする反発エネルギー、修復エネルギーなのである。

地球は重力の直接発生源ではなく、間接的な発生源だったのである。(中略)

通常われわれは、押されるのと、引っ張られるという違いは五感で認知できる。しかし、いまあなたは「重力は上から来るのか」、それとも「地球に下から引っ張られているのか」、身体で知覚しようと思っても風力や水圧のようにには識別できまい。

空間の歪圧は身体内の原子の隅々を透過し、あなた自身を空間の「歪み」そのものに同化させているからである。

だが、そのままジッと感覚していただきたい。
あなたの身体を宇宙のエーテル流(空間の歪圧)が上から下へと透過するのがカスカに感じられるはずである。

これは十万分の一のあなたの実体が、微妙にエーテル流への抵抗を感知しているためで、これが「体重」や「時間」となって、あなたに知覚されてくるのである。

(中略)

問題はUFOの推進原理とされる「重力制御」となるが、ワシントン大学の著名な物理学者ジョージ・ガモウ博士も次のようにいっている。

「ニュートンの万有引力の法則と、ハンフリー・ギルバート卿の磁極の相互作用の法則には、深い相似性が存在する。電気や磁気力を制御することができる現在、重力についても同じことができぬわけがない——」

こうして重力の正体がわかった以上、ガモウ博士がいうように重力は制御できないわけはないし、はじめに述べたように既にアメリカでは「反重力テクノロジー」が完成し、地球製UFOが大空を飛んでいるのも確からしい。

(後略)

UFO衝撃の未来図/UFOはこうして飛んでいる!

★著者/コンノケンイチ

(91年11月)

★発行者/荒井修

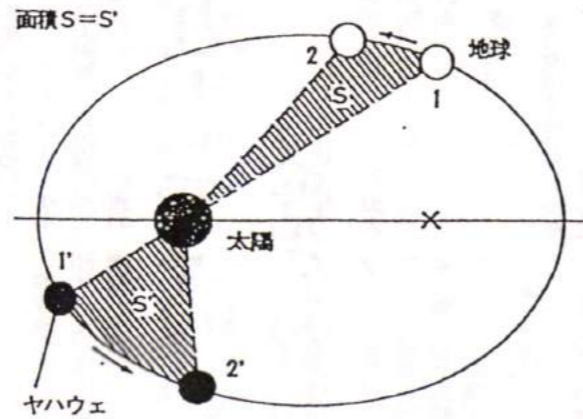
★発行所/脚徳間書店・東京都港区新橋4-10-1

刊行委の註一本能的にこのようなテーマを避ける人々との
文明論的な対決が開始されている。

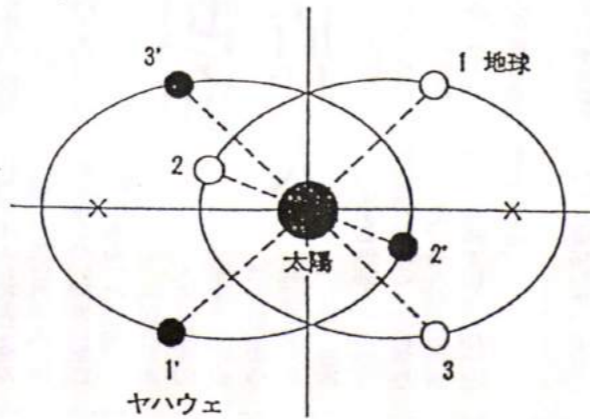
第12番惑星 ヤハウエには 生物が存在する!?

NASAが青色から赤色へ 大気の色を変えた 真相を追う

文=飛鳥昭雄 写真=矢沢事務所/宮田雪/WWP



↑惑星の軌道は常に楕円を描いている。そのため太陽を焦点として同じ軌道にあってはいても、一方の惑星が近日点に近づくにしたがって速度が早まり、相手の惑星がいつも太陽の裏側に隠れていることはあり得ない。



↑太陽を楕円の焦点のひとつとして、地球と第12番惑星ヤハウエはそれぞれ点対称となるような動きをしていたため、これまで太陽にお互いの姿が隠れる位置にあった。地球からその姿を見ることができなかった理由である。しかし、そのヤハウエも、まもなく姿を現すという。

「ム」 93年10月号

(前略)

第12番惑星には 生物が生息している

しかし、なぜNASAは第12番惑星ヤハウエの写真の色を青から赤にして出したのだろうか。NASAの意図がいまひとつハッキリしない。

まさきき考えられるのは、流出した写真に写った天体を、一般になじみのない土星の衛星タイタンの想像図とするために、赤くしたということだ。

しかし疑問が残る。ただ単に第

12番惑星ヤハウエの隠蔽ということであれば、わざわざ赤い惑星を選ぶ必要はないのではないか。初めから青い惑星の想像図とすれば、色を赤くする必要はない。事実、マイナーな青い惑星はいくらでもあるのだ。

ということとは、考えられることはひとつ。NASAは色を赤く変えることによって、何かを隠そうとした——。

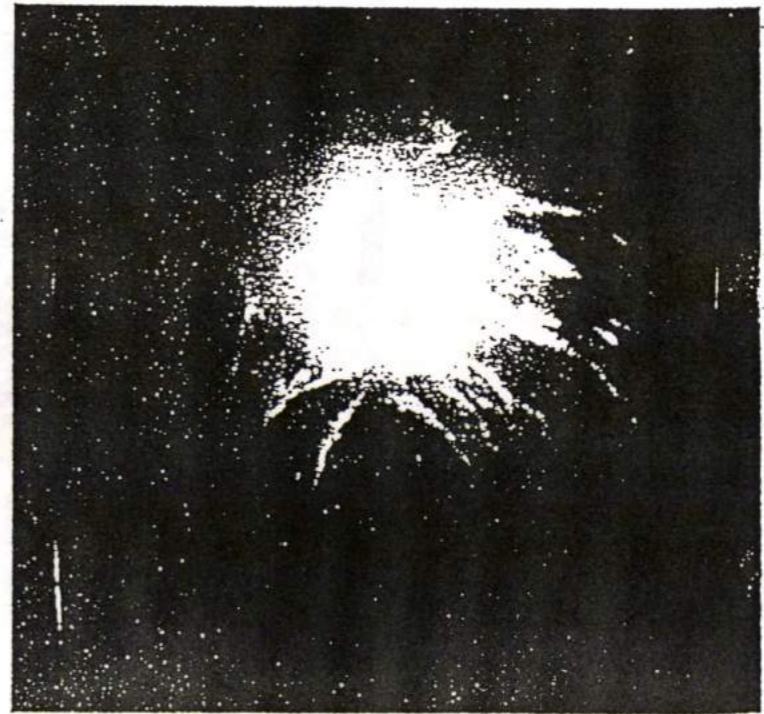
面倒なことまでして、彼らが隠そうとしたものは、いったい何か。第12番惑星ヤハウエが青いことで、何がまずいこともあるの

か。どうも、NASAがいまだに第12番惑星ヤハウエの存在を公式に発表していない理由も、そこにありそうである。

逆に考えてみよう。青い惑星という、何を連想するだろうか。青い惑星といえば、それはわれわれの地球の代名詞である。地球には大洋があり、大気がある。あるからこそ地球は青い。

第12番惑星ヤハウエにも、地球と同じように大洋や大気があるのではないか。ということは、地球と同じように生物がいる可能性があるのではないか——

(後略)



広がるか定住外国人参政権への理解

日本に生活基盤をもつ定住外国人にも地方参政権を認めるべきか、論議が高まっている。朝日新聞社が二月末に行った全国世論調査では、議会で要請決議が相次いでいる近畿では五七％の人が「認める」と答え、関心の高さをうかがわせた。しかし、地域によっては抵抗感が強いこともわかった。国際化が進む日本、近畿を中心とした新しい流れは、広がっていくのだろうか。

● 拍車

「参政権を認めない理由として、『まだ国民的合意を得られていない』という発言を聞くが、その判断する根拠や調査はこれまでなかった。今回、容認する層がかなり多いことを明らかにした点で意味は大きいと思う」

本社世論調査

近畿で高い容認傾向

政党公費助成で矛盾拡大

在日外国人

民権留民大阪府地方本部の金塚秀(キム・ヒョンス)国際部長は、今回の結果をそう見る。「七〇年代以降、在日外国人の人権問題の取り組みはいつも京阪神で始まり、全国に波及していった。地方参政権問題についても、近畿の傾向が今後、他に広がるはず」と話す。

● 反発

政治改革関連で決まった「公費助成」は、こうした定住外国人の反発を増幅する形になった。

● 海外

「海外にいても国政選挙に投票したい」という日本人の声は、一日には東京で、米、豪、タイなどをすべき時ではないか」と話している。

昨年九月の大府岸和田市議会に続き、定住外国人

が、税金に色はない。定住外国人も納税を通じて負担

「海外にいても国政選挙に投票したい」という日本人の声は、一日には東京で、米、豪、タイなどをすべき時ではないか」と話している。

「定住外国人の地方参政権」の編者で桃山学院大学教授の徐龍運(ソ・ヨンダ)が、実は関西の方が草の根の国際化は進んでいる。若い人が素直に考えてくれるのがうれしい。

「海外にいても国政選挙に投票したい」という日本人の声は、一日には東京で、米、豪、タイなどをすべき時ではないか」と話している。

「日本だけでなく本國でも門戸を開いていく。かけ橋の役割を在日韓国・朝鮮人が果たしてこそ、地球国家への流れをつくる集団として、日本人からも共感を得られるはず」というのだ。

「海外有権者ネットワーク」を結成した。田中宏・一橋大学教授は「在外日本人が投票できない問題と、在日外国人に地方参政権がない問題は裏表の関係にある」とみる。

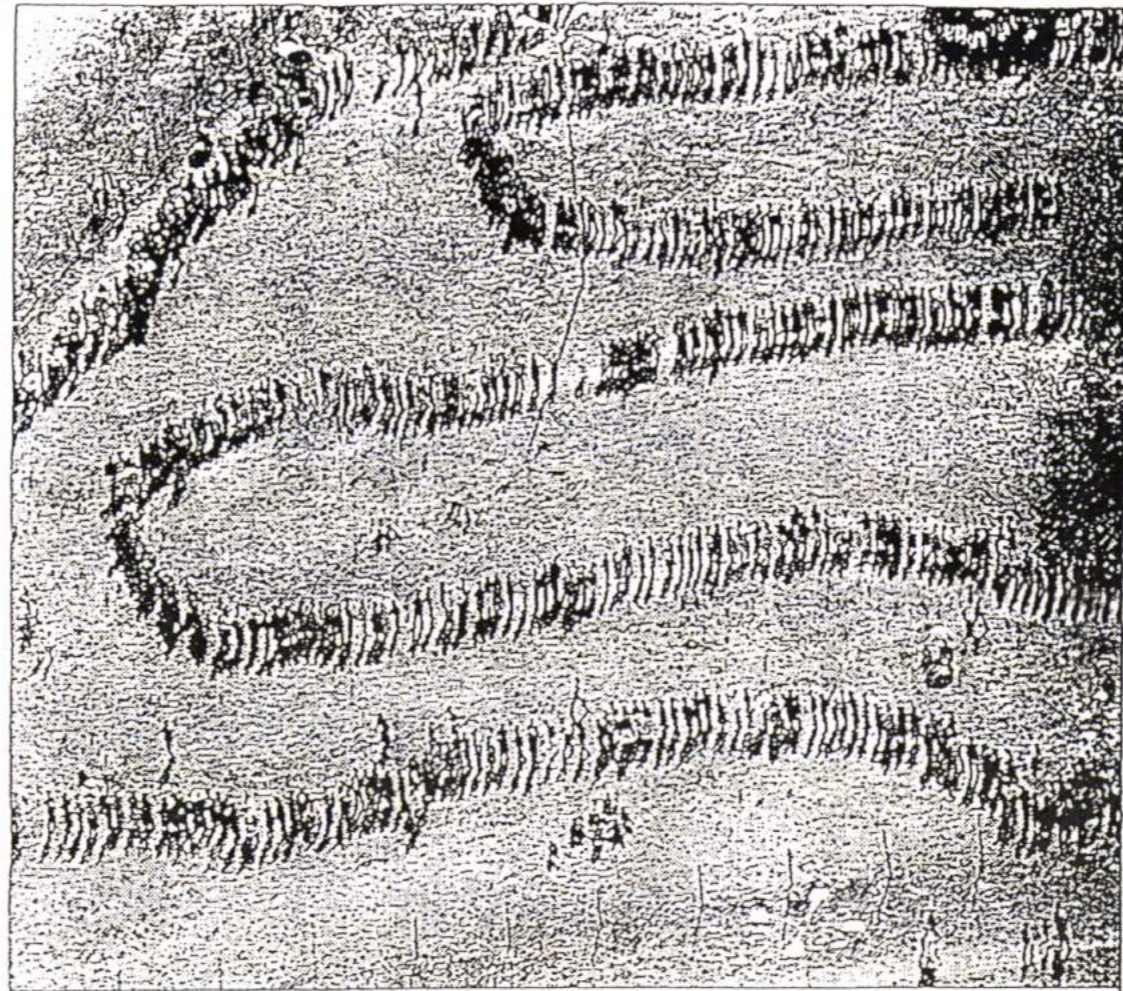
「在日日本人には日本の国政選挙に投票できるような制度を整える一方で、日本人には同じように生活している外国人にも日本の選挙に参加する権利を認めるべきだ、という運動が起こり、そういった権利を認めるよう政府に要請する決議が地方議会に出ています。あなたは、こうした動きを見たり聞いたりしたことがありますか。

質問と回答

◆日本に長く住み、地域社会で日本人と同じように生活している外国人にも日本の選挙に参加する権利を認めるべきだ、という運動が起こり、そういった権利を認めるよう政府に要請する決議が地方議会に出ています。あなたは、こうした動きを見たり聞いたりしたことがありますか。
ある
ない
その他・行えない
◆いま日本では、在日韓国・朝鮮人の人たちは選挙で投票したり立候補したりすることが認められていません。日本人と同じように地域社会に住み、税金を払っているのだから、地方の選挙に何らかの形で参加する権利を認める方がよいと思いませんか。それとも、日本の国籍がない以上、認めない方がよいと思いませんか。
認める方がよい
認めない方がよい
その他、答えない

刊行委の註「政治への絶望・嫌悪」から選挙権を持ちながら棄権する人は、せめて投票

用紙に「定住外国人へ選挙権を」と記入するただけにでも投票場へ行くべきではないか。



投票待ち ヨハネスブルク郊外の旧黒人居住区ソウェトに設けられた投票所の外で27日、長い列を作って順番を待つ有権者たち=A P

命名「自由」「幸福」「民主主義」

【ヨハネスブルク28日】林修平「初の全人種参加選挙が実施されている南アフリカ共和国で二十七日、アパルトヘイト（人種隔離）政策の下で苦しんできた旧黒人居住区で生まれた赤ちゃんに「自由」や「幸福」といった、子供と新生南アの将来への希望を込めた名前がつけられた。地元紙によると、ヨハネスブルクの北にある旧黒人居住区アレクサンドラにある産婦人科病院で、二十七日午前零時に暫定憲法が発効した後で最初に生まれた二人の男児が「自由」と「幸福」、女児が「感謝」とそれぞれ名づけられた。また、別の旧黒人居住区で前日生まれた赤ちゃんは「民主主義」という名前をつけてもらったという。

南ア、選挙期間に生まれて

刊行委の註―この列を遺伝子の染色体、あるいは電子内部の構造であると視るとすれば、それらはどのようなように、どこへ動いていくか…と少なくとも不確定ではあるが、微かな希望で想像させる。

94年4月29日 朝日新聞

(前略)

我々日本人が、アイヌ、沖縄に学ぶ、ということとは、なによりもまず、彼らの「土地制度」を学ぶということであると私は思う。(土地に対する私有財産権絶対のローマ法的原则にもとづく)土地制度を変えることなしに、我々はカミ感覚を取りもどすことはできないのである。

それでは、我々はどうのように土地制度を変えるべきなのか。

私は、土地制度変革の根幹は、日本列島三千六百万町歩に対する人間の私有財産権を一括廃棄し、日本列島の大地、自然を、カムイに奉還する、お返しする、ということに置くべきだと考える。

次に、日本列島の土地の三分の二、ないし四分の三に当る面積は、カムイの住む土地として、しめなわをわたし、人間はみだりに出入りしないこととする(日常的には人間の出入りは禁じられ、年に一度とか、二度、神聖な祭りのときにのみ、出入りがみとめられる)。

残りの三分の一、ないし四分の一の土地を人間がカムイからお借りすることとする(人間の一時使用権のみが認められる)。

三分の一と仮りにすると、千二百万町歩になるわけだが、農家の所有する農地六百万町歩は、そのまま、耕作権が認められる。(但し、この農地への農薬、化学肥料、殺虫剤などの投入は禁止される。)農家以外の人々約三千万世帯については、一世帯百坪の土地の使用権が認められ、その中の五十坪くらいは家庭菜園とし、すべての世帯が主食以外の野菜類を自給することとする。これを合計すると、約百万町歩となる。さらに、約五十世帯ごとに一つの部落を構成し、部落ごとに五千坪(約一・七町歩)の「鎮守の森」をつくることとする。この再生された「鎮守の森」の合計は百万町歩となる。それゆえ、農家以外の職業の約三千万世帯の人々の居住区は約二百万町歩となるが、彼らの消費する穀物以外の食物、水(井戸)はこの中で自給されるし、また、大小便などの排せつ物、ゴミなども、それぞれ部落の中で自然浄化のカタチで始末されることとする。

水を汚すことは、天然の秩序の運行に対しても重い犯罪として責任を追及される。

残りの四百万町歩は、道路、商店、工場、事務所、その他に割り当てられる(使用権を認められる)が、左記の項目は土地使用を禁止されるものとする。

- (1) 軍隊。従って職業的常備軍の軍備は全廃される。
- (2) ゴルフ場。及びこれに類する有害なスポーツ施設。
- (3) 農家以外の世帯で、百坪以上の土地を所有し、使用している場合、百坪を超える部分はカムイに返還することになる。
- (4) 原子力発電所、有毒な廃棄物をタレ流す化学工業など。これらは土地使用を認められない。
- (5) 大規模な家畜飼育のための土地使用(牧場を含む)は認められない。動物園、植物園も認められない。
- (6) 地球の大気を汚し、破壊するような工業的農業的諸設備、運輸機関による土地使用は禁止される。

以上、アイヌと沖縄の文化、社会秩序、宇宙観から学んだ日本列島の土地改革、日本列島浄化のための土地制度改革に関する私案の根幹を一応提起してみた。(後略)

太田竜「日本原住民と天皇制」(82年4月)

刊行委の註—この私案がもたらすヴィジョンを別の方向と方法でよいから包括して超えて

いこうとしない全ての政治思想は終焉している。

「目の前、岩が次々落下」

六甲山中、活断層の上

朝日新聞 ハイキング中、医師遭遇



阪神大震災後、山鳴りを聞いた。そのとき、神戸市灘区とたつた六甲山も揺り動かし、区の内科医、松本純治さん

「岩は、六甲山を走る活断層の上」
 酒「大月断層」の上には、目の前を岩が次々落ちていった。活断層のそばに、ガレ場を駆動して岩盤を幸折、動けなくなつた。政府と岩盤に覆われ、三日後の二十日、断層中の岩に発見され、兵庫県消防ヘリコプターで救出された。

松本さんは十六日朝、六甲山を登って青島温泉に降りた。神戸市灘区の大月断層の



松本純治さん

がクマムシの道だ。崖中から下りてくる岩の塊が、いくつも落ちてくると、十数メートル下の溝に落ちていくのが見えた。崖のくぼみにいたのがさびしい。無事だった。地盤が揺る揺るの音で下山を始める。落石だらけ

けの谷間で崖に足をとって転倒。崩れていた岩盤をこころは骨折した。三接連したに崖壁に落ちた。

三個の岩に落ちた。十六日に突入してしまっていた。水砂礫を三つ下りながら、二回、すり抜けに落ちていた。夜の冷え込みが、汗を拭きながら、足が凍りついた。両手、両足が凍りついた。

十八日、十九日は骨折に加え、凍傷によって全身に激痛が走るようになった。

二十日、神戸市灘区、林の間から、岩の塊が落ちてきた。その友人の岩が見えた。

松本さんは、崖壁から下りてきた。岩盤の隙間に落ちてきた。岩盤の隙間に落ちてきた。

朝日新聞

刊行委の註―都市にとっての斜面と巨岩という例外性の祝福として逆用していく気をかきたててくれる。

G12・〈夢肩・註〉

95年2月7日 朝日新聞(夕刊)

六甲山「ロックガーデン」 巨岩も崩れた

愛好家が確認

神戸、芦屋市境の六甲山にあり、「日本の岩登り発祥の地」として知られる通称「ロックガーデン」の数々の巨岩が、阪神大震災で崩れ落ちていた。神戸市東灘区青木五丁目に住む自営業者、森本稔助さん(とまのり)さん(三)が確認し、カメラにおさめた。

ロックガーデンは、標高四百メートル前後に、風化し浸食

された花ご岩の峰や懸がそびえ立っている。大正時代、日本の近代登山の草分けだった故郷木九三氏が岩登りの訓練の場として開拓し、「ロックガーデン」と名付けたという。

崩壊している岩は、ピラミッド、万物相の岩、風吹岩、B岩、C岩の四つ。とがった柱状の岩の上に登ると、神戸市街や大阪湾が一望できる。ピラミッドは、その先端から七、八メートルが欠けた。白っぽい花ご岩が屏風(ひょうぶ)のように立ちはたかると、万物相の七、八の巨岩は、縦方向に真二つに割れて片方が崩れ落ちていた。



①阪神大震災で、縦方向に真二つに割れて、崩れ落ちた「万物相」の岩(19日) ②クライマーに似せられた90年11月当時の岩。下の人と比較すると巨大さがわかる。いずれも神戸市東灘区のロックガーデンで、木森切鉄留さん写す



11

奇人変人通りからの報告

G 12・〈韻律と響き〉

刊行委の註「奇人変人通り」は、94年に完成した高尾氏の作品の題名で、氏が働いている西宮の八百屋さんで出会う人々を描写しており、対象とされた人は路上に座り込んで読みふけったり、コピーしにかけだして行ったり、人気がある。

(前略)

ガッガッガツと凶暴な力に突き上げられ、どこかへ連れ去られるような激しい揺れにかわっていった。とどまることがないのではないかと思うほどの激しい揺れ、ドーンと地震きがし、太古の沈黙を引きずるような低い地鳴りがかすかに耳の底に残るなか、

(中略)

視界にとびこんできたのは、海のかなた、右手の淡路島のあたりの空の青白い輝きだった。稲光ともちがう、輪郭をもたない閃光が帯のようにわいては消えわいては消えていった。ああ、これか地震のときの発光現象というのと思ったときも、心の一端では待っていた。このマンションが悲鳴ときしみをあげ、轟音をあげ、バランスを失って瓦礫の山を築きはじめるのはじまりを。十数秒、時がながれた。

(中略)

六甲から芦

屋、神戸のほうをゆっくりと見た。なにかとてつもなく大きな影がおおっていくような威圧感を抱いて目をこらすと、芦屋か東灘のあたりのあまり大きくはない建物が黒い煙につつまれ、そのたちのぼる煙を追い払うように勢いよく燃える赤い炎が見えた。背筋に悪寒が走った。

(後略)

地殻変動、衛星でクッキリ

阪神大震災

画像処理でしま模様 予知に应用も

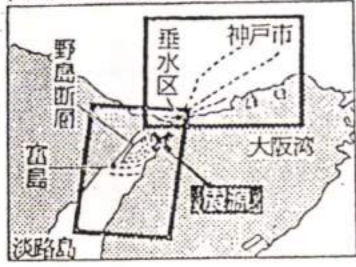
阪神大震災の被災地を衛星でとらえ、地震による地表の変化が確かめられたと、宇宙開発事業団と建設省国土地理院がその画像を公開した。地球資源衛星「ふよう1号」の観測データを解析したもので、しま模様で地表の変化を表している。同事業団では「この方法で得られる面的なデータは貴重なもので、地震や火山噴火の前兆となる地殻変動をつかむのに応用できる」といっている。

画像の処理の仕方は「干渉法」といい、三年ほど前からフランスや日本で研究が進んでいる。衛星の電波が地表に反射して戻るときの時間から地表との距離がわかるが、地震などで効果が降起すれば、衛星との距離が短くなる。降起前のデータと

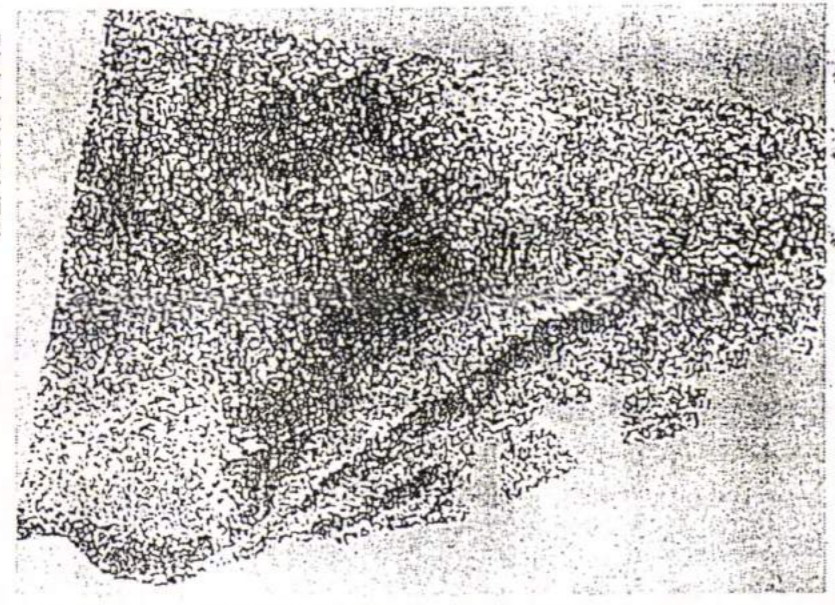
比べると、地表の変化がしま模様で表せる。地上の観測では各地のデータをつないで変化をみるしかないが、この方法だと一目で広い範囲の面的な様子がかかるという。

公開された画像は、ふよう1号が静岡県上空の高度約五百七十キロの軌道を通った一九九二年九月九日と、地震後の今年二月六日のデータを比較して作製した。衛星から被災地までは直線距離にして約七百キロで、画像のしまの間隔が約十二キロの地表の変化にあたる。

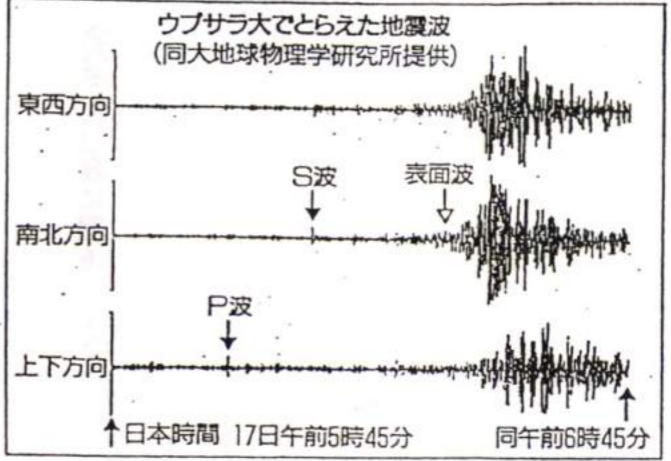
「ふよう1号」が撮影した範囲



神戸市付近の解析画像



刊行委の註—計器によって獲得される感覚の飛躍に慣れてしまわないためにも、計器の本質に迫りたい。



欧州でとらえた地震波 大被害は読み取れず

阪神大震災の激しい揺れは欧州にも伝わり、スウェーデン・ウプサラ大学の地球物理学研究所が、地震波の成分を記録していたIIグラフ。観測装置は強固な地盤の上にあり、世界各地の地震を正確に検出できるとい

最も速く伝わる縦波(P波)は、地震発生から十二分後の日本時間十七日午前五時五十八分、ストックホルム北方のウプサラに到着、それを追って横波(S波)が届いた。発生から三十分ほどして地球の表面を伝わる表面波が目立ち始め、これが最も大きな振幅を生み出した。

科学

同研究所のR・アルビドソン博士は「振幅は、これまで日本の近くで起こったマグニチュード7.1-7.2級の地震とほぼ同じ。昨年末の三陸はるか沖地震の方が、ずっと大きかった」と言う。地球の反対側でとらえた地震波からは、今回ほどの被害になるとは読み取れなかったわけだ。

(ロンドンII尾関章)

～語り継ぐ光景、学びとる経験～

神戸震災こども文庫

1996年
1月14日
オープン
します

開設準備号

あいさつ

- 1995年1月17日の六甲大地震（私たちは、阪神淡路大震災をこう呼んでいます）から、あっという間に10か月が過ぎました。ガーン、グラグラグラッ……あの激しい揺れは、一瞬のうちに膨大な家屋を崩壊させて、たくさんの人々の生命を奪ってしまいました。生き残った私たちは、地震直後から現在にいたるまで、そのときどきの時期に、あちらこちらでいろんな種類の傷を見てきました。そのたびに心を傷め、気が重くなり、ふと地震のなかった頃に戻りたいと思ったりすることもあります。
- 95年の夏から秋にかけて、おとなからこどもまで、いろいろな立場から記録がまとめられ、出版されています。そこには、あの大地震を経験した貴重な声があります。その声の下には伝えたいところが埋もれています。今年はまだ本屋さんにも「震災コーナー」を設置しているところもあるようですが、それらの記録はだれかが収集・保存しておかなければ、放置しておけば年月とともに散在してしまいます。予期しなかった大地震直後の人命救助や消火作業が「公」の力を頼っているだけでは、間に合わなかった場面があったように、この貴重な記録の収集・保存の作業も国や県や市の「公」の仕事に頼るだけでなく、たとえ小さな力でも「自分たちの手でやるんだ」という意識も必要なのではないでしょうか。縁あって、私塾教育に携わっている私は、私塾教育関係者にはもちろんのこと、教育関係者、こどもたちの将来に心を傾けておられる方々にご協力をお願いして《神戸震災こども文庫》を開くことにしました。
- 忘れたと思う気持ちと忘れてはいけないという念があります。たぶん私だけではないでしょう。思い悩んだ末に、私は断腸の思いで、この「震災こども文庫」を開設することにしました。なお、当初「神戸地震学習塾」という名称にしていたが「地震」ということばが被災地ではあまりにも痛々しいので、「震災こども文庫」にしました。大きな災害を経験して「生きるとは何か?」「学ぶとは何か?」を考える一助になればと思っています。

(後略)

「ひかりだより」の読者からの便りと……

響き その10

一九九五年
四月一日

発行

文化運動入立体化教育V学習塾
〈光でできたパイプオルガン〉

神戸市灘区上野3丁目10-18
〒657 友田清司

3月21日の特別コピー端会議

春の座談会より

(前略)

Mさん……「阪神大震災」という呼び方に、疑問がある。「阪神」という言い方は「神戸」と「大阪」という2つの大都市をセットにした言い方である。「阪神間」と言えば被害の大きかった神戸が抜けてしまふし、震源地である淡路島も抜けてしまふ。活断層から見れば「六甲」と呼んだ方が適切ではないか。また「震災」という言い方は、人間の側から自然現象に対する被害者としての意識を前提としている言い方である。自然は、人間を憐んで地震を起こしたわけではない。地震そのものは、自然現象のひとつに過ぎない。それによって大きな被害を受けたのは人間の側である。だから私は「六甲大地震」と呼びたい。と、と、と

(後略)

G12・六甲大地震に関連して

刊行委の註「ここには掲載し切れないが、かなりの人々が六甲大地震という表現を用い始めている。

● 続一九九五・一・十七

一六甲大地震

阪本敏夫

あの日(一・十七)から毎月一回協同病院に山平さんの車で車椅子をつんでいく四月も掃り須磨区の公園で青色のシートのテントが四つほどあったその夜、春の嵐の雨と風だった。十二階の部屋のベッドで寝るのもつらい松下昇さんの概念集12(六甲大地震に関連して)1995・3がきた

(中略)

「阪神大震災」の呼びかたに疑問がある。僕もその意見を支持します

六甲大地震、オウムを含むサリン的ハゲゲトン状況、
参院選の過半の棄権、(後略)

◎ (続) オウム真理教とサリン疑惑について

1995.6.5 永里

(前略)

3・現状そして心情の奥へ～

1995年は、六甲大地震に始まり、

(中略)

～と、息つく間もなく襲う人為と自然の挟撃の中で

(後略)

はじめに

【六甲大地震という理由】

一九九五年一月一七日に淡路島を震源とする大地震があった。はじめは「兵庫県南部地震」と呼ばれていた。次に「阪神大震災」と呼ばれた。それから「阪神・淡路大地震」になった。それぞれにその言われる理由があり、呼び方が変更される事情もあるようだ。けれども私は、コピー端会議に参加されたMさんの意見に賛成し、私も「六甲大地震」と呼ぶことにしたい。

そもそも地震というものは、自然現象のひとつである。私たち人間は、別な面ではその自然現象の恩恵を大いに受けているのだ。自然現象のひとつが、たまたま地震という形をとって人間の生活に大きな被害をもたらしたわけである。自然に悪気があるわけではない。人間社会にいかにか大きな被害をもたらそうとも、自然は自然の法則にある意味では忠実に従って、自然現象を行っているのだ。「震災」という言い方は、地震による災害ということ、それは人間の側からのこと

(後略)

I

女たちが
遠ざかる
胸の痛みを
かすかな
星の爆破のように聞き

もう
ハルマゲドンの
儀式も
二つも三つも終わった
夜気を吸いこんで
消えていった
幽体たちよ

21世紀を
ネガティブに
開けた夕闇から
さしている光は
イデオロギーや
絶対者を越えて
何よりも
幸せを必然として
生きる自明の者達……

白にも紅にも
黄にも自在に咲いている
変形あじさいが
雨も待たず
その時の盛りを生きている

人々の死は
ある人の盾では
ありえぬ
それ自らの命の重みを
千年もかけて償わねば
ならぬ
独裁者のきまぐれが
一つの命を弄ばぬよう
我らは
暴君を葬る

街を焼いた
ネロを屠るときのように
星の怒りが
宮殿を切り裂いて
ふと見ると
咲いている変形あじさいの
自在な色彩を
ただ夜の美しさと
ともに味わう

II

カムパネルラのように
もう還れない時を
生きて
透明な生命の
しずくを
飲んでたたずむ人よ

それは武装兵たちの
野獣の息ではなく
霧につつまれた
兵舎の
虚妄でもない
今、あなたの見ているものは
この国の
未来のネガであるため
あなたは盲いる

ああ
この胸のいたみを
いく時か耐えて
今また夕暮に落ちる
雨を
安らぎの源と
讀んでいる
私に

宗教も民族もイデオロギーも
気抜けた芝居のように
遠ざけられた
斜方晶形の焦点に
あなたのひとみが
聴くきらめいている

そのひとみが
指し示す道を
あなたは行くがよい
大地の裂目にそって
滅びた街を
毒ガスの充満する
山々から
ただあたたかい
命の鼓動として
あなたは残って歩いていた

収縮する
一つの安らぎとして
あなたは
破滅した時代の
ひとつの答……

1995/5/29

G別1・へ一篇の詩を生むためには……

刊行委の註―徳永省三氏から送られたもので、後に氏の刊行
した詩集「蒼穹」にも収録されている。(ペンネームは東畑 明)
何度も黙って読み返すと心が鎮まってくる。

1・視点

- ①関係性（国家、マスコミ～を含む）総体の幻想的せめぎ合いの構造として。
- ②個別の生き死にと、現代文明の先行きを同時にどう決着するかというテーマ性。
- ③<'69>年性の世界史的問いの中で発生してくる諸現象のひとつとして。
- ④現代科学技術が持つ生命への寄与とその根底的な破壊の両刃の未対象化領域。
- ⑤人存在の生死概念の拡大もしくは縮小、全生命体の視線からの現実構想力。
- ⑥人材とお金の集結方法としての宗教、現代の政治や経済現象との軋轢。

2・主張～推理の概要

①マスコミ～側

登場者たちの幻想的基礎—現代社会を最善ではないが最悪でもなく人の努力の可能性を信じ遂行する側に属すると思っている。大衆の怒り～意見の代行者的使命感もある。過熱した報道も「様々な疑惑を生む体質を持つ集団はやはり駄目」という良識者たちの見解に支えられ、大衆の情報消費の欲求に便乗できる体質を持つ。

サリン～銃器製造（～使用）に関する推理と主張

—オウムの持つ出家制度の矛盾→社会との摩擦の増大→現実における挫折感（選挙の敗退等）→孤立感及び被害感覚の逆転→終末観の導入とハルマゲドンの預言→被害感覚の自己増殖→加害現実への妄想的展開→防衛意識の拡大と科学主流主義への傾斜→預言の実現願望→恐怖状況の自己演技→不安・恐怖の社会への移植→兵器製造と実行部隊の存在→？

②オウム側

登場者特に幹部の人たちの観念的特徴—現代社会を人間が自らの業（カルマ）によって造り出した矛盾にみちた滅びるほかない世界と捉え、自己の生死の枠からの解脱（ドル）とそれを共同化する宗教システムを通して<次>の社会の創造に備えると考えている。多数の信徒たちにとって自分という者の死にどう向き合うかが第一義のテーマであり、本来それは個別的に担われざるを得ないのだが、独善に満ちた内容の検討は今置くとして世紀末の時間的切迫の中で個と社会の変革をトータルに本気でやろうと考えているところに特徴があり、また疑惑を引き寄せる組織的体質が生まれている。

彼らのサリン疑惑の否定の根拠と主張

—現世利益からの脱却の実践→修行プロセスのシステム化→出家信徒の増加と共同的施設の必要→自給自足体制の確立→地域や他の団体との軋轢と被害→教祖のハルマゲドン預言→地球的規模の死の切迫→救済計画の立案→最低限の文明の維持保存への準備→既成科学の宗教的止揚→？

③私的見解として

*この一連の疑惑事件の本質は①と②のねじれの中により深く隠されて行きつつあり、別の推理と総合の視点が必要。

*公権力は、このねじれを秩序維持手段の既成事実積み上げに利用。マスコミの暴走の黙認？と公式発表の引き伸ばし。世論効果に立つ別件逮捕～拘留～起訴

G別1・へオウムを論じるための前提

の乱発、組織と個人の裁判抜き制裁状況の助長。

*世の中の大勢は、オウムという宗教教団の体質がサリン～の使用にいたる事件を生み出したという方向に固まりつつあるが、ここには大きな疑問がいくつか深く問われることなく残されている。

・松本サリンは事故（あるいは実験）である可能性が高いと言われている。この時疑われた人が誤ってサリンを生成させたという説もあった。今は大学並みの施設なしには不可能と言われている。この報道の根拠と落差は気になる。指紋消去手術を施されたという松本容疑者の指紋が次の移動先のホテルで検出されたとの報道がそのままになっていることも。

・地下鉄サリンには物証が残された。しかも、土谷容疑者が教団の機関紙に発表しているサリン使用の方法をそのまま応用する形である。場所まで機関紙の内容が応用されている。ジャーナリストは「だから一層」と言うが、これを行為の予告であるとするにはひとつの前提が必要である。つまり彼らが今の自分たちの状態（宗教法人の解体に向かう）を自ら望んでいたという前提がである。→ク

・松本サリン（94年6月）や地下鉄サリン（95年3月）以前からも大きくは報道されなかったもののオウムへの疑惑は地域住民や一部のマスコミで高まりつつあった。ましてや、公安の影や他の団体の影や資産や人の獲得をめぐるトラブルの周辺に群がる法律家やマスコミの影を引き寄せた上さらに大衆の殺意を誘発する行為の主体になり、タイミングよく公証人の拉致事件を起こし、一般信徒の動揺を煽り、教団の存立を自ら危うくするというのであれば、このシナリオの主体をものはオウム真理教教団と呼ぶことに無理がないか？

・この事件の報道に触れた私の第一印象は、「なんと無防備な連中だろう」という驚きと「彼らはその思考回路から来る人類史の総括に本気だったんだな」という驚きだった。拉致監禁薬物使用として取り上げられている事態も彼らの死の概念と修行（バルドリトエドル【死を境に展開する存在の不可避的時空からの超出】の小道具を駆使した予備訓練をふくむ）概念との関連で考える必要がある。あいも変わらず魔女狩りの視線にさらすやり方で情報の商品化が映しているのは<こちら側>の荒廃状況だけで、この消費からでる廃棄物の処理には完全な装置がないという徒労感がつきまとう。新右翼—水会の鈴木邦男氏が言うように権力が真っ黒だと言ってもどこか権力のフレームアップ的な要素がないかと目を光らすのが報道の良心というものだろう。オウムがこのお人好しの少数者を引き出し利用し最終的逆転まで見越した上で自作自演の犯罪を計画したとするなら、鈴木氏も私もいい面の皮だが。

・全共闘運動や<過激派>に象徴される事柄を過去の事件として考える人々によっては、このテーマは決して解けないだろう。これらを未来形の事件の開始として追求してきた視野に世紀末の一現象として見えてくるものこそが裏目のない真実を映し出すだろうと麻原氏まがいに預言しておこう。

1・現状～

5月2日時点でメモを作成してみた段階から、事件は急転直下、一気に全容解明に向かっているかに見える。サリンの製造に関わったと見られる土谷容疑者や遠藤容疑者、更に実行に関与したという医師の林容疑者などの細部に渡る自白内容がテレビや新聞で連日報道され、麻原教祖の逮捕の前に、裏の実行部隊のトップと言われる井上容疑者が後に最初の指名手配を受けた公証人拉致事件の松本容疑者が逮捕されると、問題は公判維持と教団解体、一般信徒を含む被害者救済の方に重点が移り、世論構築のための暴露劇もやや冷静に集中点を捜し始めているようである。主要幹部達の相次ぐ供述を背景に6月6日勾留期限の切れる教祖の起訴が発表され、他の疑惑の本格的な追及に移ることになる。そのプロセスに並行してもうひとつのポイントは教団の指導層と一般信徒を幻想の領域で切り離し、信教の自由の建前を前面に自発的な脱会者を作りだして教団を実質における解体に追い込むことだ。法による規制や制裁のみでは現代社会の支配原理の勝利を意味しないのだから、常にマスコミの持つ機能と役割は権力にとって大きい。

教団の側もそのことを意識して、上祐氏を中心に反発のトーンを落とし、教団の基本イメージ(真面目な仏教徒の修行集団)の回復の方向を求めている。しかし、状況は彼らにとって絶望的に展開している。更に言えば、孤立や解体を極力避けようという発想が前面に押し出される時は、全ての<宗教>組織が辿った何らかの決定的な変節の契機なのであり、むしろ、現状を引き寄せてきた自らの根拠と状況の力について冷静に分析し、全ての支配原理を解体して行く<非>宗教性の<非>に出会う契機をこそ造り出すべきだ。それはサリン(～武器や麻薬～)を造るより数億倍難しいが、可視的な組織が解体されたとしても、<信>に結集した個々の原初性を救出し新たに組織して行く真の根拠たりうるだろう。また、それは俗世にまみれた私のような位置でも担われている今生を超えるテーマで在りつつ、相互に今ここにおいて他者を発見する前提でもある。

2・心情～

衝撃的な疑惑や事実があり、その主体として個々の人間がクローズアップされる。こういう存在との遠さの確認のみが、情報消費の核にあって、秩序に対応する個々の視野の狭窄状態に拍車をかける。この世界の中心に今在るそれぞれの私のダイナミズムを、エキセントリックな他者の演ずるドラマの観客として浪費させている位置にふと気付く時、言葉や印象の固定ないしは増殖によって私たちが退化させているものの大きさがクローズアップしてくる。過去から現在に綿々と連なる全世界的～日常的圧殺状況からやって来る印象の断片が意識の上を滑って行く中、時折、直接の当事者ではないのにひとつの事件やその主体が明確な輪郭を現わし、怒りや苦痛や憎しみなどの感情を生み出す関係付けの対象として浮上する<自然>さはよく考えると不気味だ。この不気味さを拡大した形で演ずるのはオウムばかりではない。マスメディアは今やもうひとつの脳として退化した私たちの部分に侵入している。

具体的に自分の思いから記そう。

「真犯人がオウムであってほしくない?!」という私の心情の傾斜は何に由来するのか?

①この社会を規定している秩序の形への生理的とも言える嫌悪感が、私の幻想の核に

G別1・へオウムを論じるための前提

在り、これに媒介されて、反秩序として抽出される彼らの教義や活動の底に、現実の流れと異質な可能性としての、おそらく在り得ないものを夢想しがっている。

②秩序に寄生する集団であること以上に違った価値観を実体化して存在したいという彼らの衝動のようなものがあつげらんと分別の壁を越えてしまう印象に重なり、その内実の批判に先行する在る種の共感を明滅させる。

③宗教の衣を纏った、実態は謀略と無差別殺人の集団として国境をはみ出す暴露と批判にさらされているが、問題は、全ての批判者を含む個人や社会の発想の底に潜む宗教性を公然と対等に検証し得る視座の必要であり、もしオウムが権力犯罪の被害者ならこの事件は広い範囲に反省の機会を与え、なにかがしかの社会的契機にもなる。

④～

とは言え、このような心情を固定化するところに立っているわけではない。たどった時間は、心情においてであれ、現実においてであれ、立場の固定(～への収束)を前提とするルサンチマン(怨念)の教義化を解体する時間でもあったのだから…。

3・現状そして心情の奥へ～

1995年は、六甲大地震に始まり、地下鉄サリン、米国連邦政府ビル爆弾テロ、民族紛争への国連軍介入、エボラ出血熱、更にはサハリン大地震～、資本主義経済の先行きを写す日米自動車協議紛糾～と、息つく間もなく襲う人為と自然の挟撃の中で秩序への信仰と生活の根幹を揺さぶる事態が進行している。ユダヤ～キリスト教の宗教的優位性と使命感に立つフリーメーソンメンバーを連合軍司令官とする占領に始まった<神>国日本の戦後は、侵略民族の集中点を拡散されても、尚、新しい<神>の論理を貪欲に受け入れつつ50年を経て経済大国にのし上がったが、ここに至って根底からの再検討を迫られていることを自覚すべきである。それぞれの事態は個別的に発生しているというより、退化した私たちの意識が把握できない時軸の周囲に生じているという感じ方は重要である。末端の直接的な時間の切り売りを生業とする位置の波動は私たちにそう告げている。現代の正統的な説教師たちより、秩序に巣くいその壁を食い破る夢想の結果、犯罪者として登場したオウムの教祖～及び周辺信徒の方がこの時軸の渦が巻き込んでいる現象の本質を、今、説得的に体現していると言い得るのである。権力～マスコミ～は、自らの許容する現実に沿って、これらを異常性として切り離すためにもしくはらくは過熱した報道に民衆を引きつけ、告発する己の<神>の言葉に憑かざるをえまい。

この世紀末、幸運にも生き残っている私たちを乗せている文明の基盤が揺れ始めている。「もっとラジカル(根源的)な問いを立てよ」という声と共に…。

このメモの形はここで置く。今後はより総合的な宗教批判として展開したい。

犯罪を現代国家や既成宗教のことばの枠で規定する全ての発想と対立せざる得ないとしても、権力さえ判断停止する深淵に届かない光は無力であり、

①行為の主体をむしろ罪の固定に追いやる心情のオブラートに包まない。

②法的な無罪や有罪を比喩たらしめる程の審判にさらされている自覚に立つ。

③個々の主体に還元不可能な行為それ自体の意味に開かれて行く。

～以上を、過渡的に記しておく。

刊行委の註―多くの点、特に最後の数行の指摘に力づけられる。

作：いしな
 とりの
 やまだ君 1368



朝日新聞
 95年8月23日

夏休みの宿題（二角定規）

このページ右のマンガに触発されて生じたイメージを記す。このマンガの掲載日付は8月23日であるが、あと一週間で夏休みが終るという時間性からの配慮であろうか。「チビまる子ちゃん」の場合は8月31日に家族全員で日記を分担して書いたりしていたことと比較すると、早めに準備し、進歩？しているのかも知れない。私の場合は、これと逆で、夏休み後の9月1日の朝、自分の住居の前を通過して久しぶりに学校へ向かう同級生たちが、それぞれ工作をかかえているのを見るまで自分が宿題の最難関である工作をしていないことに気付かなかったのであった。

考えて見ると、それは5年生の1946年9月1日の朝で、前年の8月15日の終戦（敗戦）直後の9月1日には、7月下旬に夏休みに入る前の宿題をやることなど考えもしなかったし、教師たちも、宿題を忘れたことを責める余裕など持っていなかった。しかし、1年後の7月下旬に夏休みに入る前には、戦争の影は殆ど感じられず、自信を取り戻した校長先生は運動場で生徒たちに、これからは科学の力で日本を世界一にしていけるのだから夏の間には何か新しい発明か工夫をしてくるように命じたのであった。生徒たちの作品の中から、よくできたものは県の発明工夫展に出品すると激励もしていたので、県全体、いや全国的な企画として推進されていたのかも知れない。私は不器用な上に、大事なことは忘れてたり後回しにする傾向が、その頃から顕著で、9月1日の朝に気付いた時には、どっと汗が吹き出し、この世界が騒いで見えたほどである。子どもにとっては宿題の未完成が大人にとっての戦争の未完成よりも重大なことでありうるのだ、と次第に思ってきているが、その時はそれどころではなかった。

その後の経過は今でもはっきり記憶している。ある直観に導かれて私は傍にあった便箋の固い裏表紙の隅の部分をハサミでてのひら位の感じで斜めに切り取り、エンピツで適当に刻み目を付け、真ん中にマルを書き、「ここには穴をあける」と矢印つきで記入した。作業は1分もかからず、私は何かすばらしい発明と工夫を実現したと真剣に思い込んで、意気揚々と学校へ出立した。：おそらく普通の教師ならば、このような生徒に対して叱責するか軽蔑するであろうが、その時の私のクラスを担当していた女教師は、そっと微笑して、これは発明工夫展には出せないけれど面白い、といってくれた。私は、その時は自分の努力が認められてうれしく思ったものの、すぐに忘れてしまっていたが、半世紀ぶりに思い出し、その女教師に感謝している。私が他者から見ると取るに足りない思いつきを怖れずに表現し実行してきた感性、ごくまれにであるとしてもマトモな人には不可能な作品を具体化してきた必然の形成に、あの女教師も関わっていることが判ったからであり、そのような了解の仕方は〈発明工夫〉の原初性や未来性に無関係ではないからである。

私の表現、とくにオウム論の中にも、あの三角定規の時のような契機から作成したものがあるとは思うが、どこかにあのような〈女教師〉がありうることを期待して楽しい。

刊行委の註—ここには、95年〜70年〜45年を遡行して、それぞれの段階の〈戦争〉概念の

把握へ出立する位置と方法も込められている。

原註—その後、あの三角定規をどうしたか記憶にない。こういうことが私には多すぎる！

前略。突然、手紙を差し上げる失礼をお許し下さい。私は、神戸大学闘争に関連して、70年に神戸大学から懲戒免職処分を受け、同時に告訴されたために刑事裁判の被告人となり、その上告過程で第二東京弁護士会の小野正典弁護士に国選弁護人としてご協力いただきました。また、人事院審理に関連して生じた刑事裁判にも、前記弁護士に私選弁護人としてご協力いただきました。

今回、手紙を差し上げるのは、私自身のことというよりは、オウム事件に関連しています。この事件の被告人の一人である早川紀代秀氏は、神戸大学の学生時代に私に対する処分や告訴を批判する運動に共闘してくれました。そのかれがオウム事件の中心的な人物の一人として登場したので私は非常に驚きましたが、国家権力やマスコミのような全否定ではなく、かれ(を一例とする各被告人)の生きてきた軌跡の内的な必然性をたどりつつ、批判すべきところは批判し、共闘すべきところは共闘しようと考えて、まず早川氏あてに警視庁気付で手紙(①)を送り、この①を含むオウム情況論やオウム裁判への提起などをパンフレット(②)として送りました。

しかし、これまで応答がなく、届いたかどうかの確認もできていません。前記の小野弁護士のご意見では、接見交通禁止のために届いていない可能性が大きく、弁護人を通じて差し入れる方法もあるが、氏名は公表されていず、自分も知らないとのことでした。ただし、長期間にわたって代用監獄に勾留し、接見交通禁止を続けることは不当であり刑事裁判総体に関わる問題であるから、日弁連会長を介して担当弁護士から被告人へ届けることには意味があり、私の表現には届ける価値があるという助言をしていただきました。そこで次のように考えております。

オウム事件の全ての被告人へ私の表現②を届けたいのですが、まず、私の表現によって、より本質的な裁判への関与をなしうると推測できる早川紀代秀氏、井上嘉浩氏および土谷正実氏へ、さらに麻原彰晃氏他全ての被告人へ、
一 日弁連会長として差し入れていただくか、
二 各被告人の担当弁護士から差し入れるように各弁護士へ助言していただくか、
三 その他の方法を私へご教示いただくか、

いずれかをお願いしたいのです。

ご多忙中と拝察し恐縮しますが、どうかよろしくお取りはからい下さい。

なお、獄中へ差し入れたい第一便として前記の②4部と、参考資料としてご保存いただく1部および、差し入れ・転送・私あて連絡などの費用として切手若干を同封致します。

1995年12月17日(私に対する身体拘束開始の10周年に) 松下 昇

〒657 神戸市灘区赤松町一―一

日弁連会長 土屋公献殿

刊行委の註―反応の有無に関わらず、この提起は必要であり、

反応の有無に関わらず、これ以外の試みも持続している。

寒山拾得縁起

一八

佛一教会 神道・仏教・キリスト教を佛一させ、日本の思想調和を目ざそうとする会。波沢栄一を中心とする学者・実業家グループが明治四十五年に結成したもの。

唐子 中国風の服装をした童子。

一九

新小説 春陽堂発行の文芸雑誌。

宮崎虎之助 生没未詳。明治末から大正初期、みずからを予言者・メシヤと称して路傍で説教し、話題を投げた人物。

メッシアス Messias 古代ユダヤ人が待ち望んだ救世主。転じて、救世主。

寒山拾得縁起

徒然草に最初の仏はどうしてできたかと問われて困ったというような話があった。子供に物を問われて困ることはたびたびである。中にも宗教上の事には、答に窮することが多い。しかしそれをこぼんで答えずにしまうのは、ほとんどそれは嘘だと言うと同じようになる。近頃婦一協会などでは、それを子供のために悪いといつて気づかっている。

寒山詩が所々で活字本にして出されるので、私のうちの子供がその広告を読んで買ってもらいたいと言った。

「それは漢字ばかりで書いた本で、お前にはまだ読めない」と言うと、重ねて「どんな事が書いてあります」と問う。多分広告に、修養のために読むべき書だというように事が書いてあったので、子供が熱心に内容を知りたく思ったのであろう。

私はとりあえずこんな事を言った。床の間に先頃かけてあった画をおぼえているだろう。唐子のような人が二人で笑っていた。あれが寒山と拾得とをかけたものである。寒山詩はその寒山の作った詩なのだ。詩はなかなかむずかしいと言った。

子供は少し見当がついたららしい様子で、「詩はむずかしくてわからないかも知れませんが、その寒山という人だの、それといっしょにいる拾得という人だのは、どんな人だか教えてください」。私はやむことをえないで、寒山拾得の話をした。

私はちょうどその時、何か一つ話を書いてもらいたいと頼まれていたので、子供にした話を、ほとんどそのまま書いた。いつもと違って、一冊の参考書をも見ずに書いたのである。

この「寒山拾得」という話は、まだ書肆の手にわたしはせぬが、多分新小説に出ることになるだろう。

子供はこの話には満足しなかった。大人の読者はおそらくは一層満足しないだろう。子供には、話したあとでいろいろの事を問われて、私はまたやむことをえずに、いろいろな事を答えたが、それをことごとく書くことはできない。最も窮したのは、寒山が文殊で拾得は普賢だと言ったために、文殊だの普賢だの事を問われ、それをどうか答えるとともにまたその文殊が寒山で、普賢が拾得だというのがわからぬと言われた時である。私はとうとう宮崎虎之助さんの事を話した。宮崎さんはメシアスだと自分で言っていて、またそのメシアスを拝みに行く人もあるからである。これは現在にある例で説明したら、いくらかわかりやすかろうと思っただけである。

しかしこの説明は功を奏せなかった。子供には昔の寒山が文殊であったのがわからぬと同じく、今の宮崎さんがメシアスであるのがわからなかった。私は一つの関をこえて、また一つの関に出会ったように思った。そしてとうとうこう言った。「実はババアも文殊なのだが、まだ誰も拝みに来ないのだよ」



昭和四十二年二月二十八日 初版発行
昭和六十年九月三十日 三十六版発行

発行者——角川春樹
発行所——株式会社角川書店
東京都千代田区富士見二一三三
編集部(〇三)二三八八四五一
電話 営業部(〇三)二三八八五二二
〒一〇二 振替東京①九五二〇八

印刷所——新興印刷 製本所——文宝堂製本
装幀者——杉浦康平
落丁・乱丁本はお取替えいたします。
定価はカバーに明記してあります。

Printed in Japan

刊行委の註—あとがきで触れている。

あとがき

この資料集は、作業の初期の段階では、もう一冊の〈概念集への索引と註〉と統一的に構成してしたのであるが、量的な条件以上に質的な対極性が著しいため二冊にした。しかし、そのために別の同位性も発生しているので統一的に読み、応用していただきたい。

資料ないし資料集という場合、すでに概念集5で〈資料〉を論じているが、それとは別のゆらめきを伴ってシリーズ各号のテーマの方へ、16ページの〈数〉の概念構成でいうと〈近傍〉位相で交差してくる資料と対話している感覚があり、なかなか楽しい。

資料の最後にある、森鷗外の「寒山拾得縁起」は、小説「寒山拾得」を書く契機についての文章であるが、これを読んだ時に、概念集を刊行する契機について〈概念集縁起〉のようなものを書いてみるのも面白いなと思った。考えてみると、概念集シリーズに限らず私の表現は、いつも表現の契機を主軸に記述しており、〈縁起〉概念に縁が深いことに気付いた。私の位置は鷗外とはかなり異なるけれども、それでもなお、縁起を媒介してこのような出会いもあり得たことの意味は考え続けたい。

一九九六年一月 刊行委 気付 松下 昇

内容や刊行過程についての質問／提起などは左記へご連絡下さい。(概念集9や10のへあどがき)に記したような不確定状態にありますが、連絡は可能です。

〒657 神戸市灘区赤松町一の一 松下 昇気付 刊行委員会
☎とfax 078・821・4984

刊行リスト(定価はなく、読者の何らかの表現と交換するのが原則です。ただし、共同作業のためのカンパは歓迎します。)郵便振替口座 01150・3・42929

松下 昇(についての)批評集

α篇1(88年10月)、2(89年6月)、3(95年6月)、…α系は国家による批評

β篇1(87年9月)、1更新版(94年9月)、2(88年9月)、2更新版(94年9月)

3(94年9月)、4(94年9月)、…β系はマスコミによる批評

γ篇1〜4(87年11月〜88年3月)、5(88年11月)、6(93年9月)、

7(93年9月)、…γ系は個人による批評

表現集1(88年8月)、2(88年12月)、3(94年4月)、

発言集1(88年9月)、2(88年12月)、3(94年5月)、

神戸大学闘争史1年表と写真集1(89年5月、その後さらに更新中)

神戸大学闘争史1別冊1(93年4月)、別冊2(93年4月)、

(3・24)証言集・上巻と下巻(89年12月〜90年1月)、

菅谷規矩雄追悼集(90年10月)、

救援通信最終号(91年5月)、

〈6・20討論の記録1不確定な断面からの出立1〉(91年10月)、

正本へドイツ語の本〉(77年9月)

五月三日の会通信1〜26(70年7月〜81年12月)、訂正リスト(93年5月)

時の楔1へ、語に関する資料集1(78年10月)、時の楔へのからの通信(87年9月)

時の楔通信第0〜15号(78年10月〜86年7月)、訂正リスト(94年6月)

概念集1(89年1月)、2(89年9月)、3(90年5月)、4(91年1月)、

5(91年7月)、6(92年1月)、7(92年3月)、8(92年11月)、

9(93年11月)、10(94年3月)、11(94年12月)、12(95年3月)、

別冊11オウム情況論1(95年10月)、

概念集シリーズへの索引と註(96年1月)

概念集シリーズへの補充資料(96年1月)

序文とあとがきから見た既刊パンフのリスト(93年1月)、2(95年1月)、